アクトレイザー

MOTOHIRO KATO 加藤元浩 PRESENTS

既刊好評発売中
ファンタジーコミックス

## 加藤元浩

大活劇が描きたかったんです。神と悪魔の対立というステレオタイプの構造の中に、姫様のために生命を投げ出す馬鹿な男、というこれまた黄金パターンを取り込み、その上で[illegible]面もない冒険譚を成立させたいなあ…と。そんなこんなで出来たのが、この作品です。……願わくば、楽しんで頂けますように。

ファンタジーコミックス

# アクトレイザー

MOTOHIRO KATO 加藤元浩 ……………PRESENTS

# アクトレイザー

## 1

MOTOHIRO KATO……加藤元浩……PRESENTS

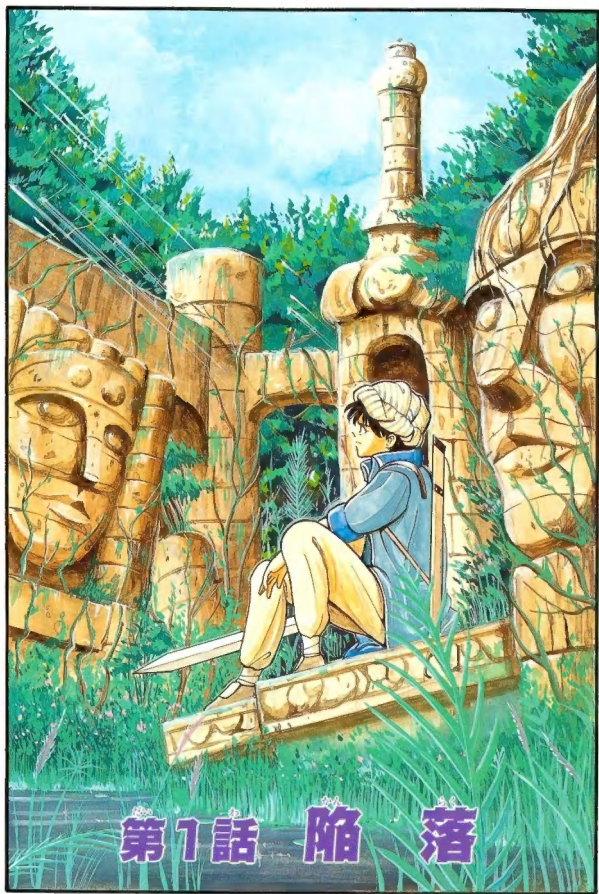
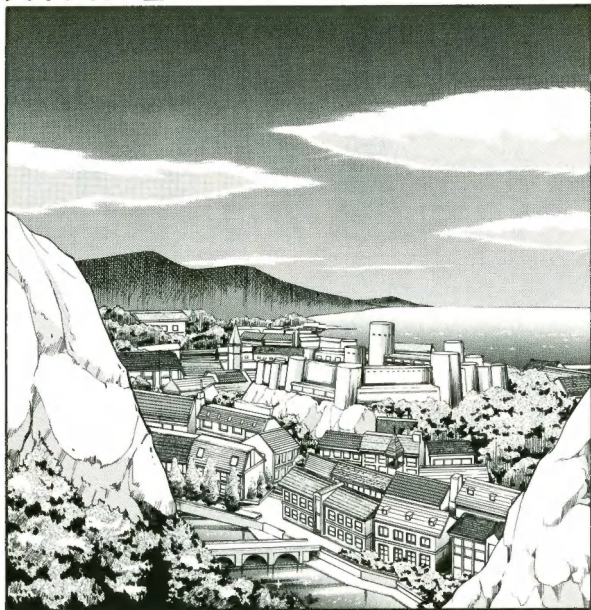
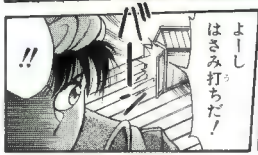
遥か昔……
人々は神の守護のもと
魔王の影に怯えて
暮らしていた……
神と魔王は対立していたが
その力は互角であるゆえ
世界は均衡が保たれ
長い平穏が続くかに見えた…
しかし地上を望む魔王は
静かに　だが確実に
邪悪な胎動を続けていた…

第1話●陥落……P4
第2話●神剣【カオススレイヤー】……P43
第3話●ダーツとアリシア……P79
第4話●魔王サタン……P115
第5話●最終決戦【ファイナルバトル】……P151


そして今
伝説は動き始める…

アクトレイザー
ActRaiser
1
加藤元浩 MOTOHIRO KATO

第1話　陥　落

ド.ドロボーッ!

ダーッだ!!
ダーッがワシの大事な金を!
だ 誰か捕まえてくれ!!
なんでェ高利貸しのサラーキンだよ
いいぞダーッ! よくやった!

ガシャ
おおっと!
ドタドタ
いたぞ!あそこだ!
へっ
警備隊か……
よーし はさみ打ちだ!
バーン
!!
行けェドンケル!!
おうよ
ダーッ
てめえの増長も…
今日が最後だ!!
大仰な格好して
それで動けんのか!?

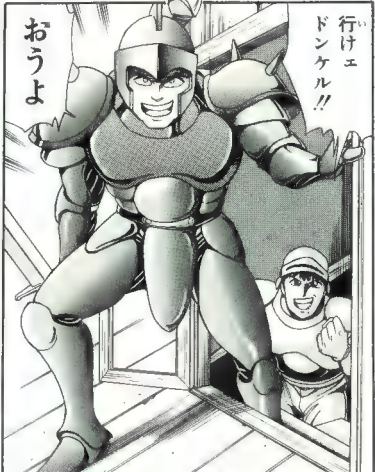
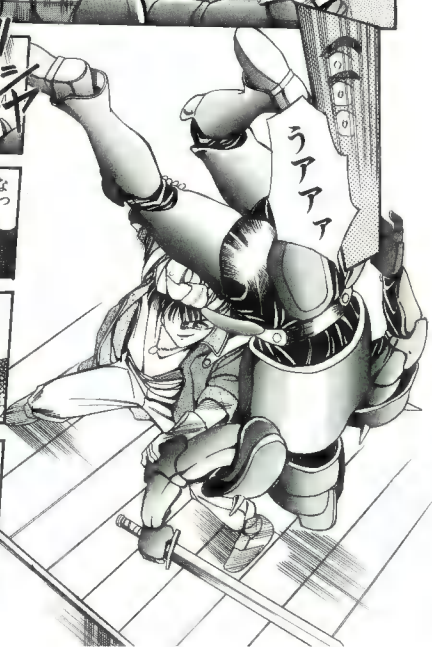
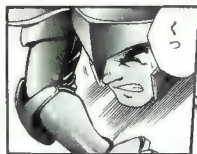
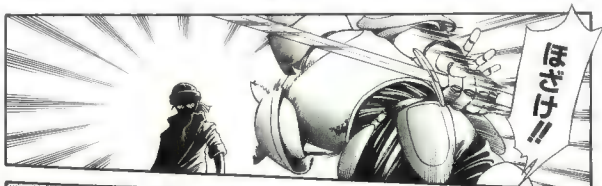
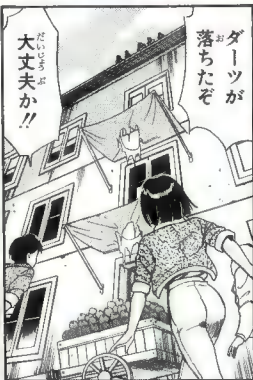
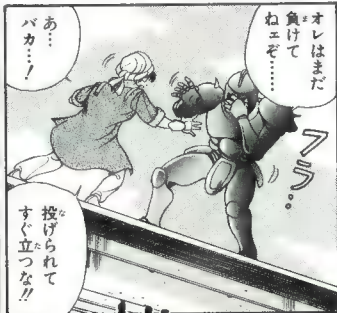
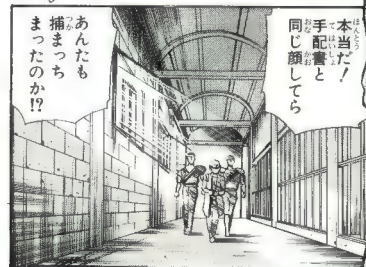
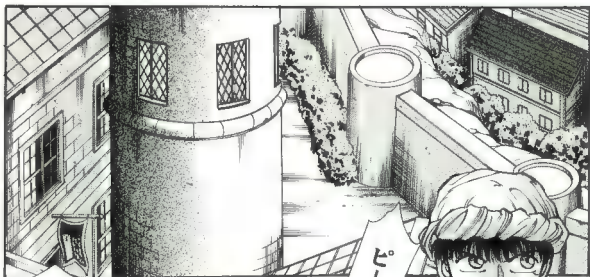
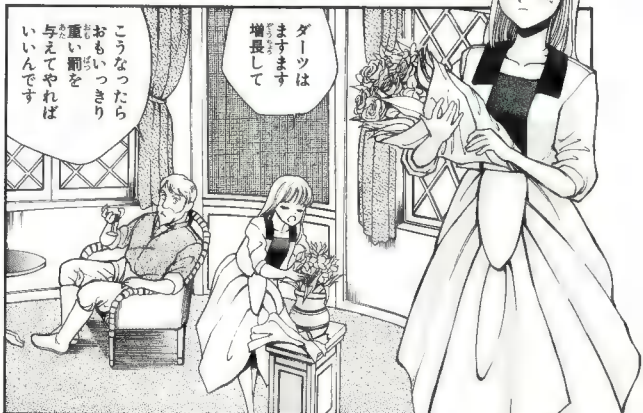
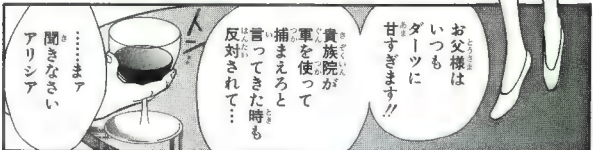
ほざけ!!
スッ
ブン
ガシャ
うアアアア
なっ
動きづらいだろう
……
すげェ
くっ

オレはまだ負けてねェぞ……
フラ。。
あ…バカ…!
投げられてすぐ立つな!!
…で
!!
あ…
ドド!!
くそっ
ああ!?
ドサ
ダーツが落ちたぞ
大丈夫か!!
くそォ……ついてねぇ〜〜〜

ピーーーッ
見ろよ！ダーッだぜ！
本当だ！手配書と同じ顔してら
あんたも捕まっちまったのか!?
骨休めだよ骨休め！
リフレッシュしたら出てってやらァ
いいぞォ脱走すんのかァ!?
……

待てこら!!

これじゃトイレだって行けねェぞ!

ふふ…

こりゃ失礼 先輩にあいさつもなしで…

あんなこそ泥をみんなで英雄扱い!
ダーツはますます増長して
こうなったらおもいっきり重い罰を与えてやればいいんです
しかしまァ…兵の命を救ってくれたことだし…
またそんなこと!
お父様はいつもダーツに甘すぎます!!
貴族院が軍を使って捕まえろと言ってきた時も反対されて…
……まァ聞きなさいアリシア

皆……
あの噂に不安を感じているのだ
かつて神により封じられたはずの魔族が復活し既に数十もの国が滅ぼされたという……
黒く不吉なものが地上を覆いはじめているのを
皆感じておる
神託も途絶え神官たちも原因については首をひねるばかりだ
そんな中で強い者に一人で挑むダーツの姿に
恐怖に立ち向かう勇気を得とるのだ……

人を傷つけるような奴なら容赦はせん
だがダーツは懐の得物を一度も抜いたことがないという…
だから今は…
お父様は買いかぶっておられるのです
ダーツは
他人を傷つけても平気な人です
失礼します
カチャ
氷の神殿の使いと申す者が
陛下に謁見を求めておりますが
………
わかった

チャリーン
ほほ…
こりゃ器用なもんじゃわい
カチッ
ほォ
カチン
カチン
ジャラ
ジャラ
ざっとこんなもんよ!
おみごとおみごと
ところでジイさんはなんで捕まったんだ?
オレは今から逃げるけど…
なんだったら連れてってやるぜ

ワシはここに好きでおるんだ
かまわんでくれ…
へーー変わってんなァ
狭いトコ好きなんだ
実はの…
え？
ワシは…
お前さんに会いにここに来たんじゃ…

ゴゴゴゴゴゴ
いやーー
素晴しい!!
実に
みごとな
城ですなァ
はじめまして
国王!
私
ゲックと
申します
これは
ご丁寧に…
いや
こちら
お美しい
こりゃ
お母様似
ですかな?
…ところで
この国には
人を探しに
来られた
とか……
ドサッ
さよう
さよう!

こーんな
長い包みを
持った老人で
ございましてね
どうしても
見つけ出し
たいんです
しかし我が国も
例の魔族のことで
兵を手いっぱい
使っている状態
残念ですが
お貸しできる
人材は
無駄な
ことを…
魔族に
襲われて
助かった国など
一つも
ございません
いくら
備えても
無駄と
いうもの
それより
我々に
協力して
いただきたい
ほう…
この地上の
主は常に
強い者…
獣は
人に狩られ
人は魔族に
狩られる…
決して
逆らえぬ
自然の流れで
ございます

抗うことなく殺される獣もおらん
人間とて同じこと…
そーゆーちっぽけな抵抗が…
実に私を楽しませる
うぬっ
ヒャッヒャッ
タッ!
この城を気に入りました
先にいただくとしましょう

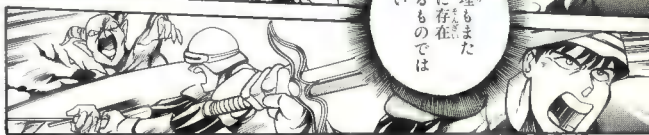
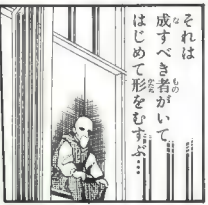
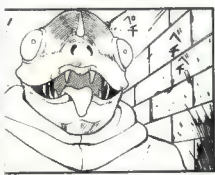
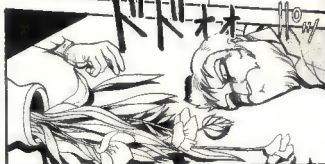
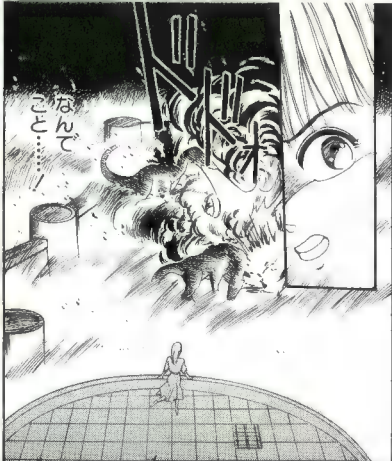
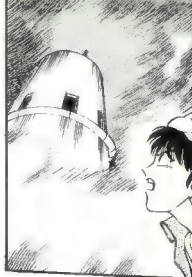
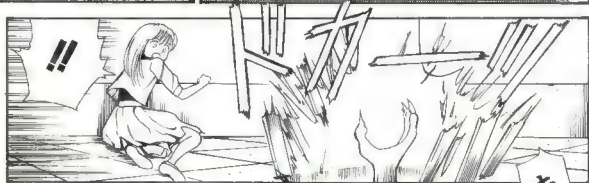
バリァァーン
キャッ
!?
うアアア
!
ドドドドドドッ
じ…城壁がァ
オオオオオ
ド…ドラゴンだ!!
魔族が来たぞ!!

やばい！火を吐くぞ
逃げろ！
イイイ
ゴゴゴゴ
キャアア
ズズズン
!?
魔族じゃ
魔族が攻めて来たんじゃ
お前さんも噂には聞いとろう

？
何をやっとるんじゃ？
そんなシンキクサイ話をするために…
オレに会いに来たのかよ

だったら一人で勝手にしゃべってな！
カチッ
オレはみんなと一緒に戦ってくるぜ
オレのシマ荒らされて黙ってられっかよ！
無駄じゃお前さんではドラゴン一匹倒せん
戦えば必ず殺される

理屈の多いジイさんだな!!
やってみなきゃ分かんねェだろうが!!
待ちなさいダーッ…
この二つを持って行きなさい
魔族と闘う時きっと役にたつ…
ワシは敵の強さを教えた
お前さんは戦うと応えた…
これはその証しだ

善も悪も
それ自体
完全なもの
ではなく
摂理もまた
常に存在
するものでは
ない
それは
成すべき者がいて
はじめて形をむすぶ…
人間たちを
守ってやれなく
なった今…
お前の……
成す者と
しての
力に——
賭けて
みよう……

どけエエ!!
あいつ生きてるだろうな!!
キィキィ
ドドオオ
パッ
プチ
ベチベチ
…は……早く……逃げ……

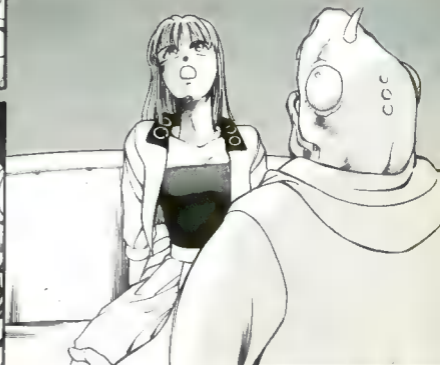
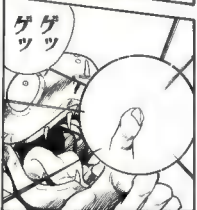
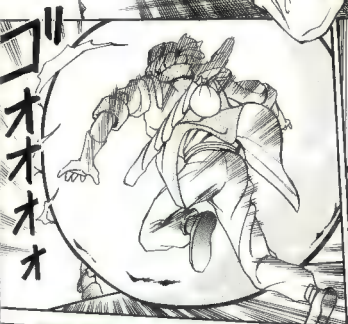
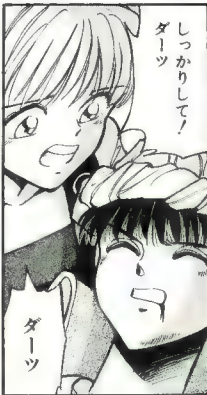
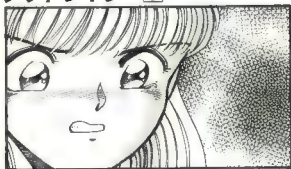
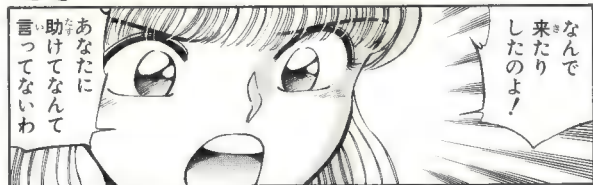
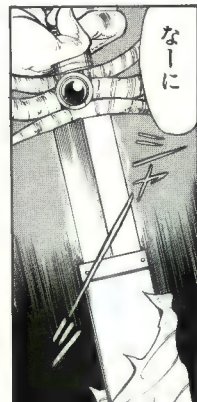
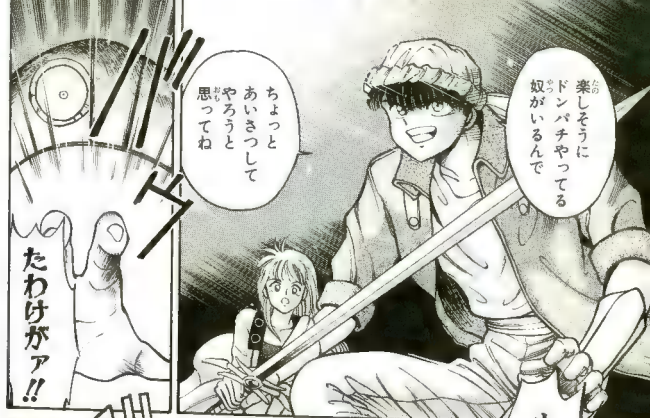
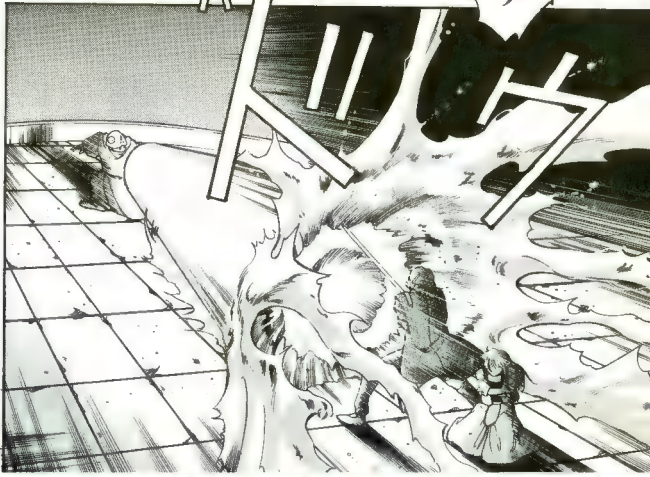
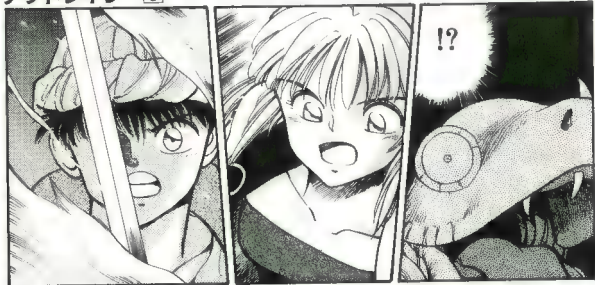
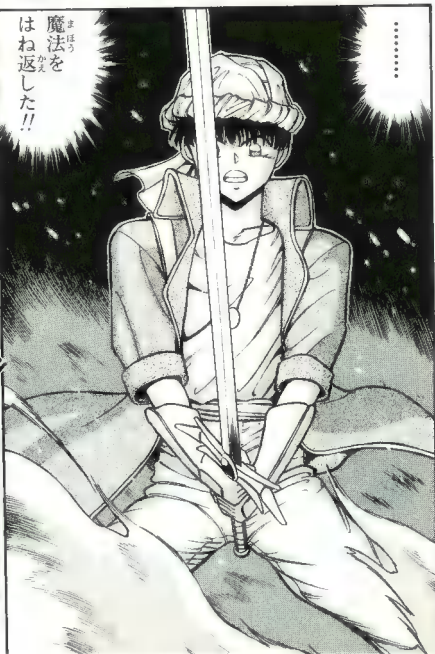
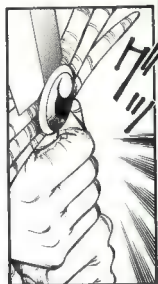
ドス
ズグッ
ゾオオ
キャッ
こいつの言う通りだァ
早く■げないと殺しちゃうよォ
ゲッゲッ
ガタ
ガタン

ドドドオ
なんてこと……!!
アリシア
!!
ドカーン
キャアア
あーーっ
お前!
投石器!!
ヒャッ
ヒャッ
遊びは終わりィ

おーーし ピッタリだ
ほえェ
失せろ バケモノ!!
ダーッ!!
こざかしいなァ

シャッ!
くそっ
ダーツ
よけて!
ゲッゲッ
ゲッ
ゴォオオオォ

うおおおっ

ガッ

アリシア
前に会った時も泣いてたな…
バカ
なんで来たりしたのよ!
あなたに助けてなんて言ってないわ
???なんで生きてるんだ?
魔法の火線のド真ン中で2千度の炎をまともに喰らったはずなのに…
なーに

楽しそうにドンパチやってる奴がいるんで
ちょっとあいさつしてやろうと思ってね
たわけがァ!!
キャアアア

!?
……
魔法をはね返した!!
グッ

ジイさんの言った通り
役に立ちそうだ

か…神はこの男を…!?
城をとるのに夢中になりすぎた!!

今度はこっちから行くぜ!!!
ドビュッ
まずい!
な…
ドズッ

なんて力だ！殺される

ちょこまか逃げやがって

そうか！あの女！

ヴゥン

ゴゴゴゴ

くそっ
!!
ドス

その剣を握ってろ!
絶対離すな!!

ダーッ
やめて!
早く
……

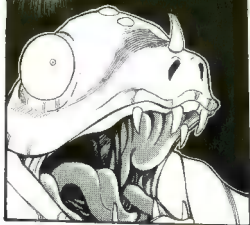
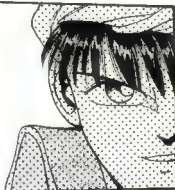
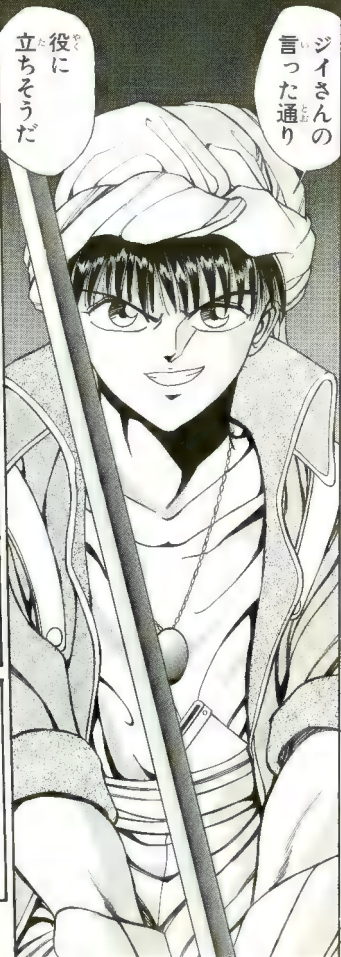
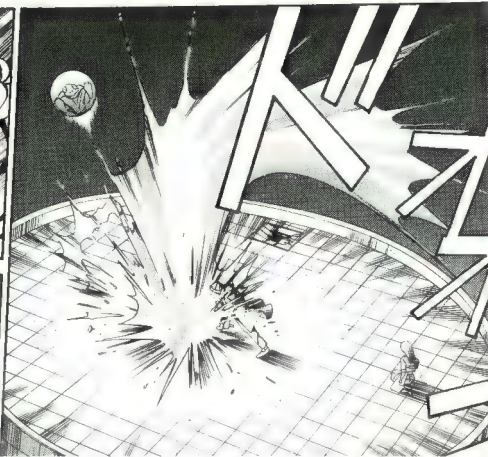
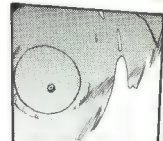
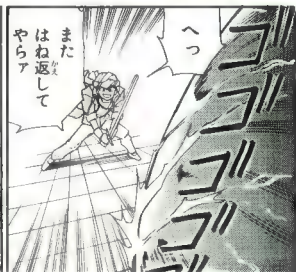
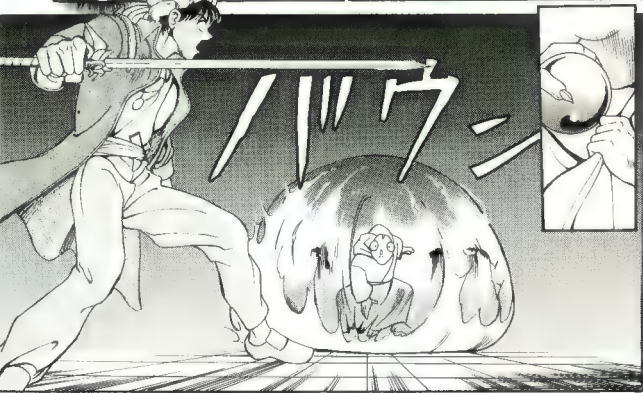
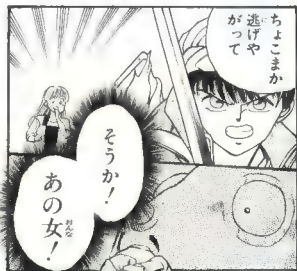
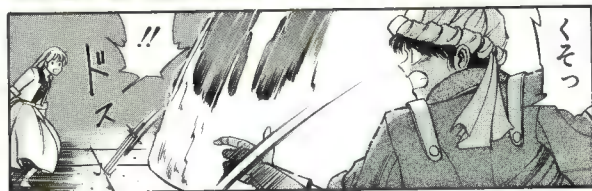
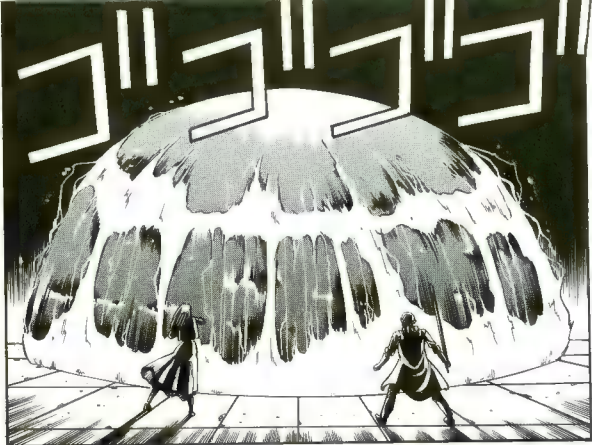
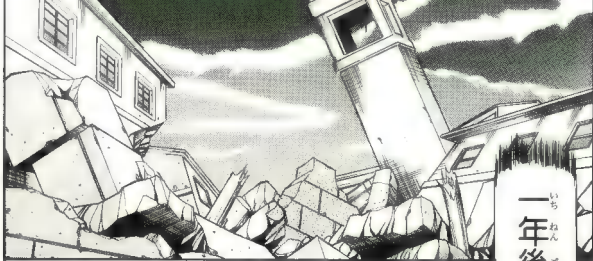
ドドドオ

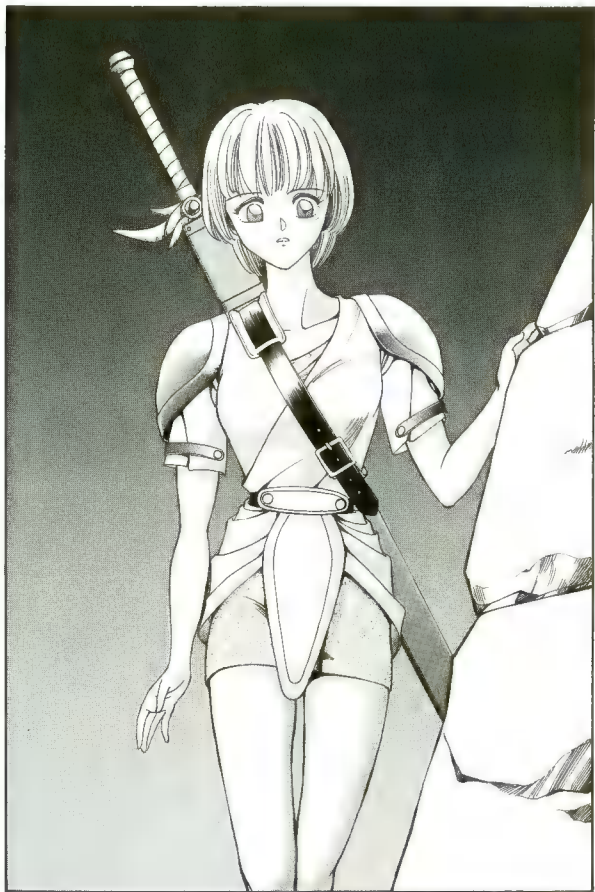
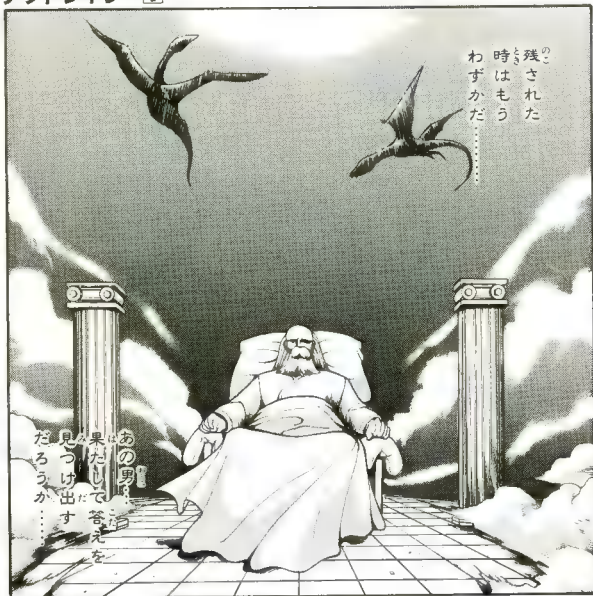
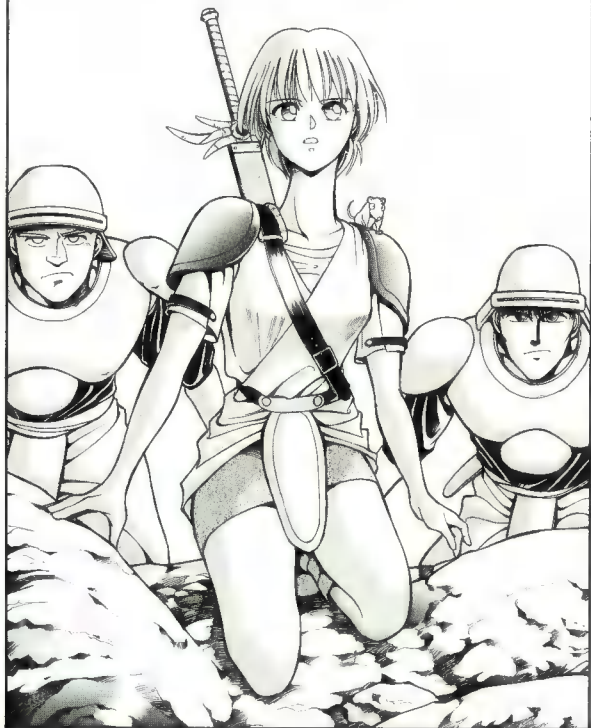
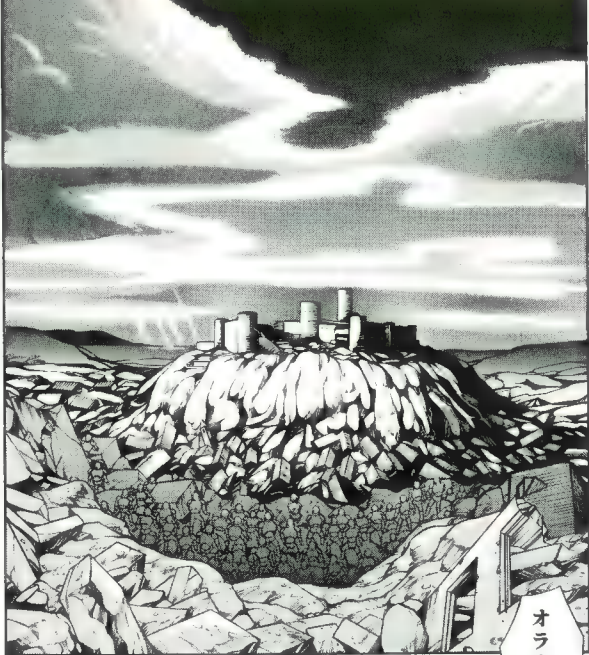
ヒャッ
ヒャッ
大成功
大成功
ドドドドドド
うわァァ
し…
城がァ！

カオス
スレイヤーも
その持ち主さえ
いなければ
ただのクズ剣
これで魔族を
脅かす物は
なくなった！

サタン様に
早速
報告しましょ
きっと
ほめて
下さるぞォ

頭も
なでて
もらえるぞ♡

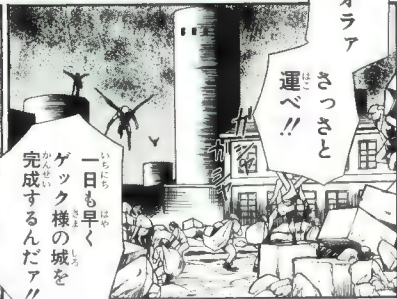
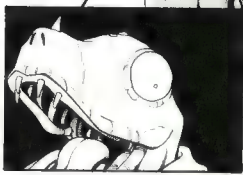
ゴォォォォォ

一年後──
ヒャ〜〜〜
ここが
あの地上かよ!
ずいぶん
荒れはてち
まって……
ビシャ
ン?
へ?
か
神様!
私
ネズミに
なっちゃって
ますけど!?

スマン…天使よ……
お前を地上の生き物に具現化しようにも力が衰えて これが精一杯なのだ
そんなァ
急いでくれ天使よ…私の力が…尽きる…前に……
わっ
ドス
ドス
わっ
そう言われても…まだ人間が生き残ってるかどうか……
ななななっ
ブルブル
ちっ魔族じゃねェネズミだ
脅しやがって
スッ
スッ
なんだ……生き残ってるじゃないか
なにごとですか?
ただのネズミでしたアリシア様

残された時はもうわずかだ……

あの男…果たして答えを見つけ出すだろうか……

# 第2話 神剣（カオススレイヤー）

オラオラァ
さっさと運べ!!
一日も早くゲック様の城を完成するんだァ!!
ぐっ

だいぶ進行が遅れてますなァゲック様
人間は少しもろすぎるようです
食用にまわす分をこちらに投入してみては
完成した城が
早く見たアーい
あっ
トン…
コン
お お許し下さい…
て…手がすべって…

ドシュ
……
ひどいことするなよォ
痛いじゃないかァ――
ボタボタ
ドッ
くそっなんてことを
家族が人質にとられていて
男が働けなくなると女子供が殺されるんだ
なんとかできねェのか!?
あのゲックの火炎魔法とドラゴンは強すぎる…
もう少し様子を見て…
戦いましょう!

これ以上
あの人たちを
放っては
おけません

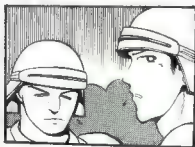
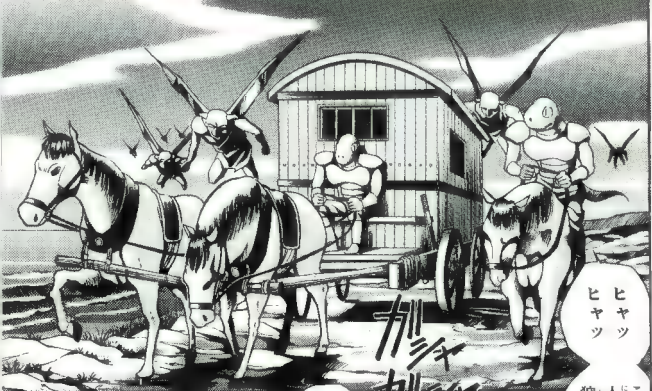
アリシア様

地下の
排水路から
中に入って
魔族たちを
引きつけます

その間に
捕まっている
人たちを…

い…いや
しかし…

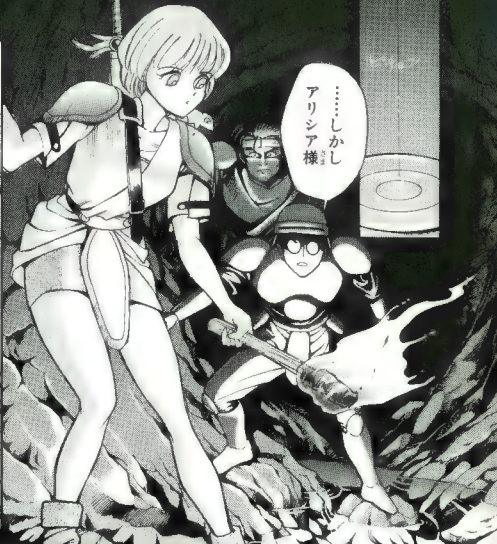
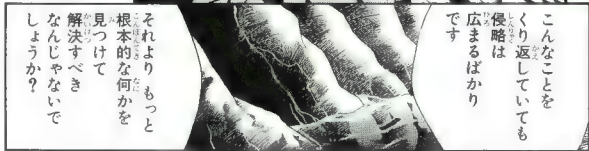
………

だれか三名
ついて下さい
ま…
待って下さい
無茶ですよ
あのドラゴンや
ゲックの強さは
御存じでしょう
たった一晩で
我が軍は
壊滅し…
仲間も
大勢
殺されて
今は
こらえるしか…
……
ただ
相手が
強いだけで
それだけで
あきらめて
しまうんですか
自信と誇りを
持ちなさい!!
今あきらめたら
何もかも
失ってしまうん
ですよ!!

逃げちゃ
いけないんだ
あ
ドドンケル!
スッ
グッ
待てよ
お前が
行ったって…
ハデに
引きつけて
やるからよ
後たのむぜ
たった一人で
強い者に
向かった人を
私は……

ヒャッ
ヒャッ
ガシャ
ガシャ
これだけ人間を狩りゃあ
ゲック様もよろこんで下さるぜ
ザザッ
!
オイ見ろよ
ピーーッ
勇ましいのが一人剣持ってとおせんぼしてらァ
ちょっと行って殺してきな

ギイイイイ
ヒッ
死ぬのはテメェらだ!!

……しかし
アリシア様

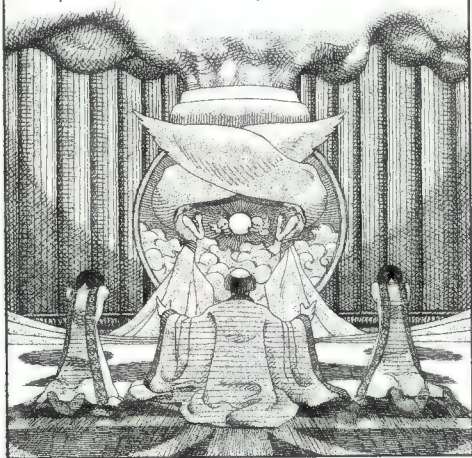
もし上手く
助け出せたと
して…

その後
どうすれば
よいのでしょう

こんなことを
くり返していても
侵略は
広まるばかり
です

それより もっと
根本的な何かを
見つけて
解決すべき
なんじゃないで
しょうか？

五年前……
奇妙な神託が
下ったのです

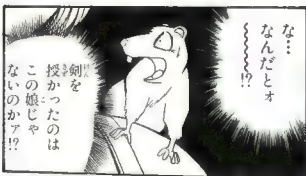
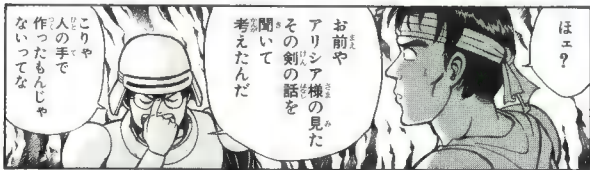
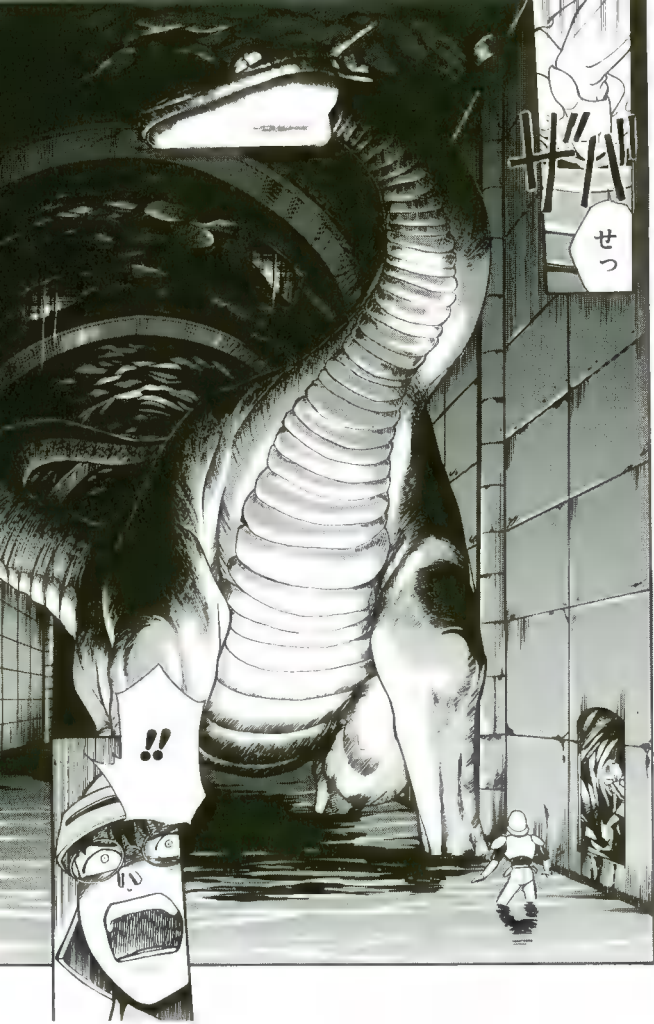
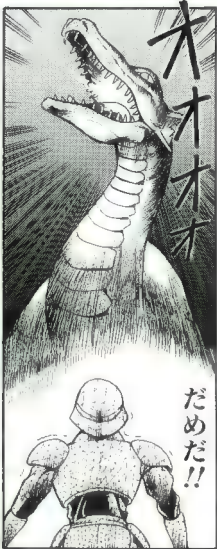
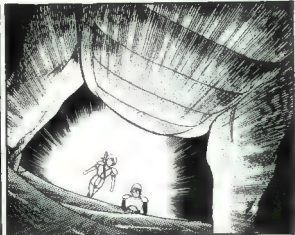
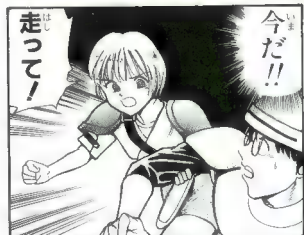
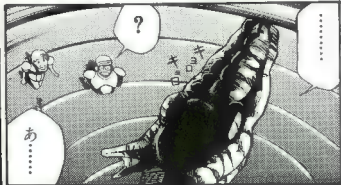
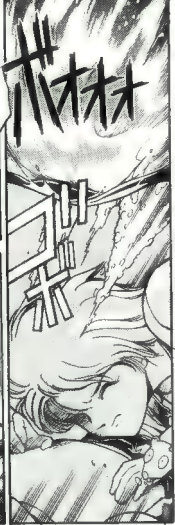
内容は
こうです…

今…
第一の門を
くぐる者あり
成す者は
剣を得て
混沌を
分かつであろう
其が成さねば
第二の門は
開き
すなわち
最後の門と
なるであろう―

ほェ?
お前や
アリシア様の見た
その剣の話を
聞いて
考えたんだ
こりゃ
人の手で
作ったもんじゃ
ないってな
今度のことは
その剣と
ダーツという
盗賊に……
きっと何か
つながりが
あるんだ
………
あ
バカ!
ダーツの
ことは…
な…
なんだとォ
〜〜〜〜〜〜!?
剣を
授かったのは
この娘じゃ
ないのかァ!?
だとすると
この娘に
剣は使えない
ヤバイ!!
あ…
ここが城の
真下ですね

ザバ
せっ
!!

しまった
読まれてたんだ
戻れ!!
早くしろ!
急いで
あ…
足が…
動か…
やられる!!
オオオオ
ゴオオオオオ
だめだ!!

ボオオオ
うわっ
ゴゴゴゴ
ゴボ
!

……ああ
このドラゴンか……
怖がらなくていい
ベルドってんだ
昔
ちょいと助けてもらってさ
それ以来の相棒だよ
あ…あの…
城に行かれるという話ですが…
それは…
やめた方がいいと思います
自殺行為です！
今あそこは魔族の巣になっていて……
人の行く所じゃありません
………

馬三頭に馬車一台ありゃ帰れるだろ
この道は使うな足跡や轍も消すんだぞ
ま待って下さい！
確かにあなたたちは強いけれど
城の魔族はすごい数なんです！
殺されに行くようなものです！
あそこに居る連中にゃ
いろいろと貸しがあってね

ズズゥウ
きき来たア
!
ズイ
くっ…
オレだって
オレだって
グググッ
きゃあ!?
んんんおおお
戦士なんだ!!
!
行き止まり!?

!!!
せっ
ダハーーッ
ジーーン
早く!!
ここは
オレが
くい止めます
い 行って
下さい
なに
バカなこと
言ってるの!
早く
手を
早く
しなさい!
急いで!
は
はい
き
来たァ

ドス
ドス
わっ
わっ
くっ
苔で手が…
あっ！
カマ首がのびる!!
だめだ
だっ

ハッ
ハッ
ハーーッ
立って！
!?
こんな所で
火を吐かれたら
終わりよ!!
立って
走るのよ
こ…
この人は…！
は
はい
タッ
ゴオオオオ
うわっ
本当に
来たっ
見て！
出口よ！
ハッ
ハッ
急いで!!
ボオオオオオ
ゴー

あっ

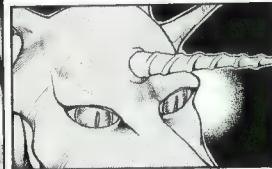
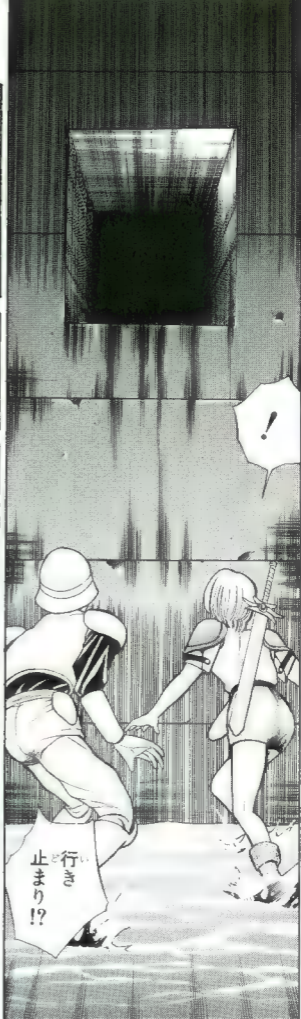
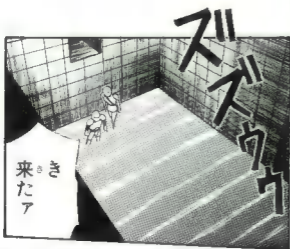
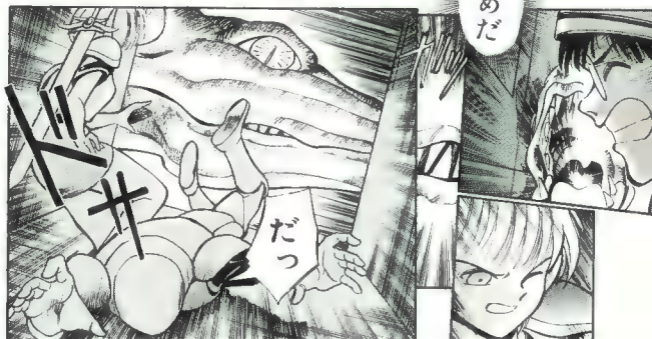
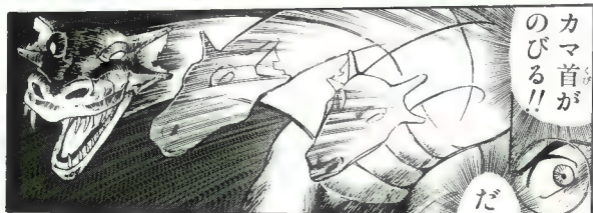
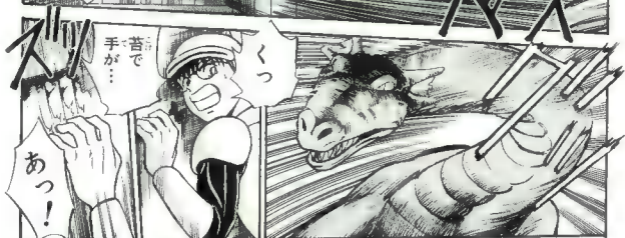
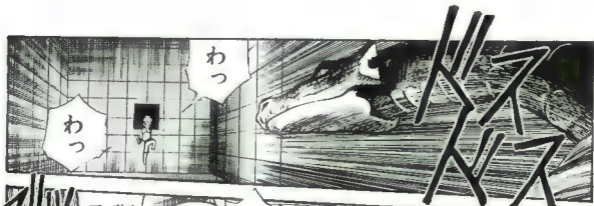
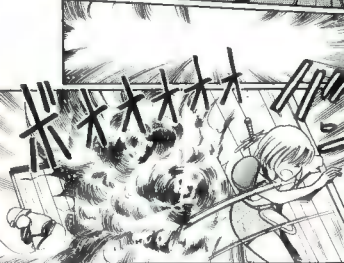
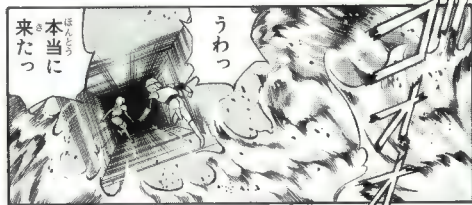
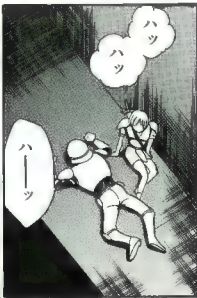
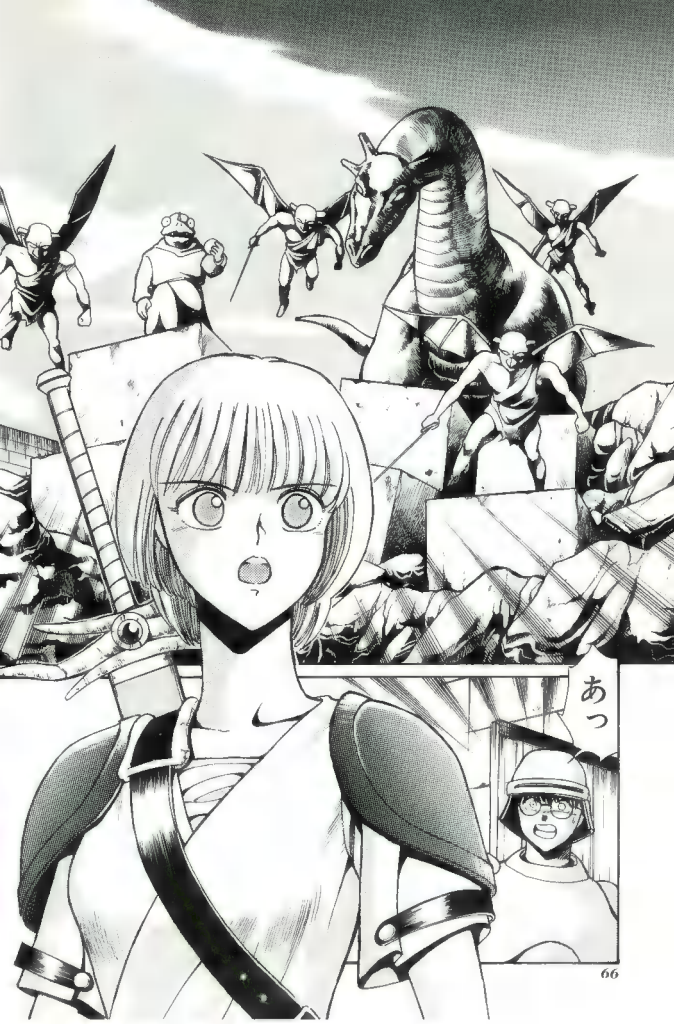
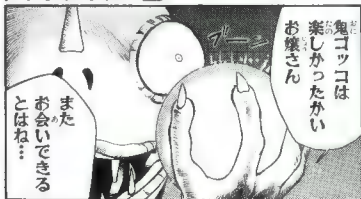
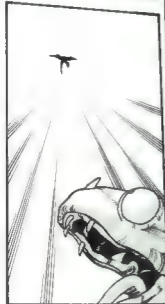
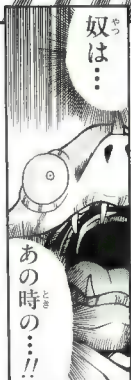
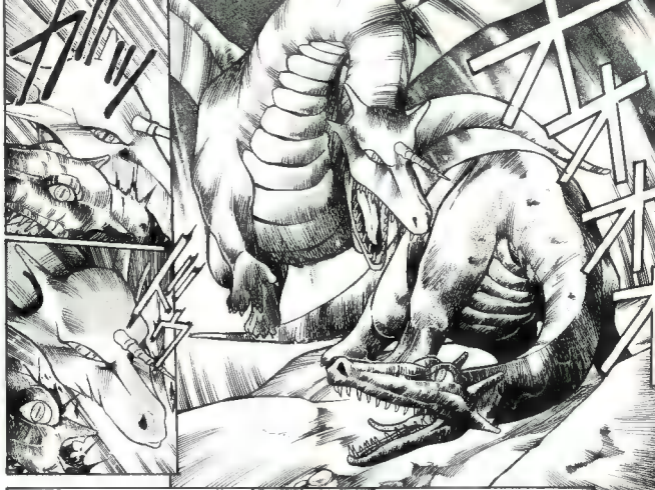
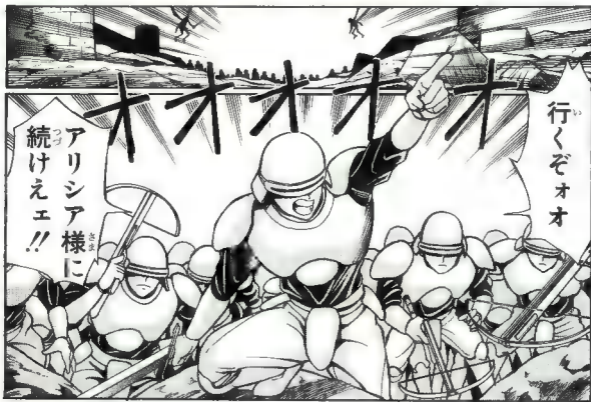
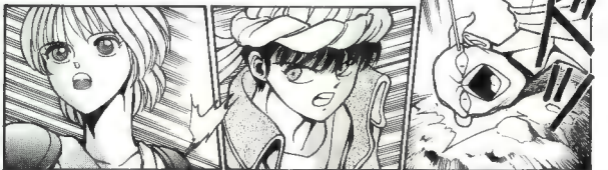
鬼ゴッコは楽しかったかいお嬢さん
ブーン
またお会いできるとはね…

!!
サタン様の言われたとおりだ

人間はぞんぶんに痛めつけろ…
パシッ
そうすれば仲間を助けようとまた人間が集まる……

人間は必ずそうする
甘い甘アァァい！

ゲッゲッ

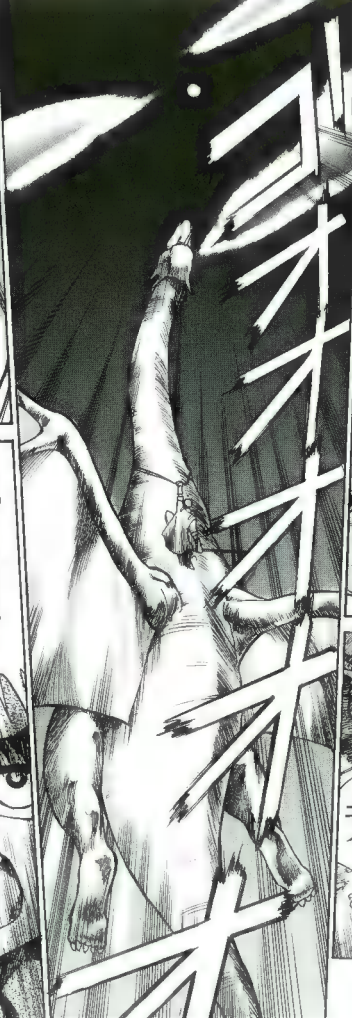
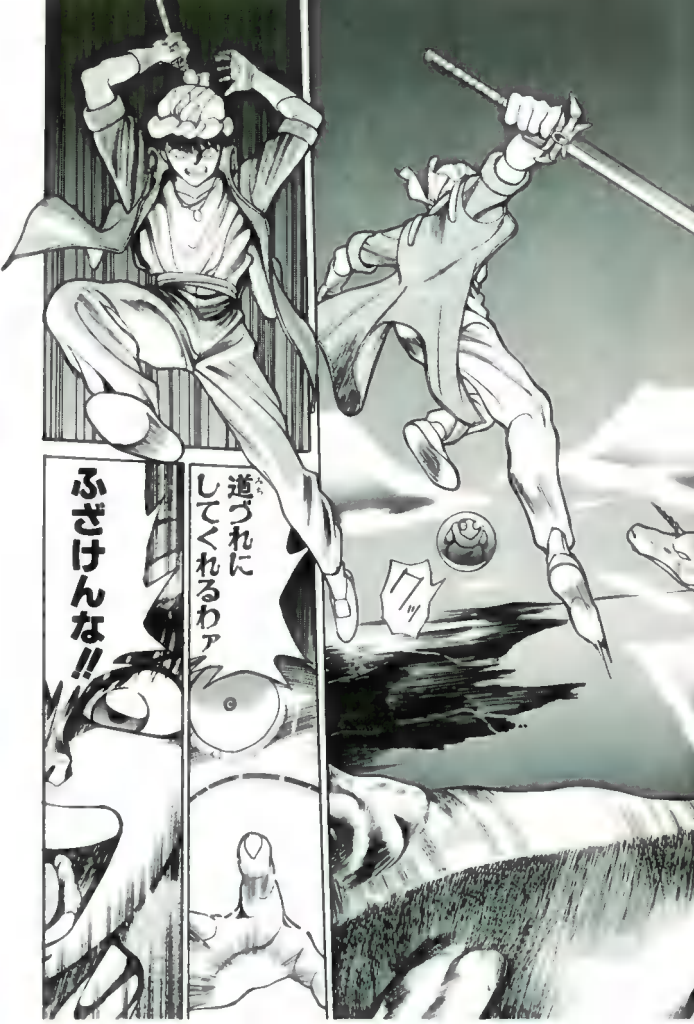
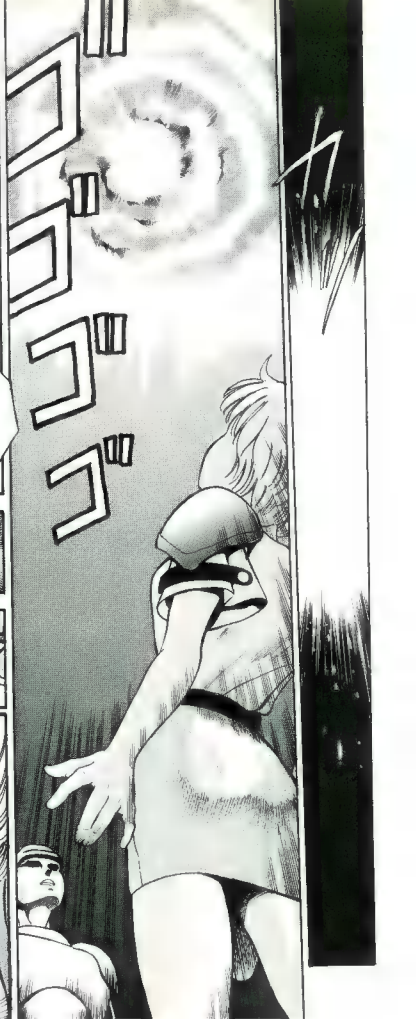
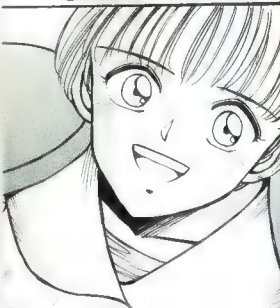
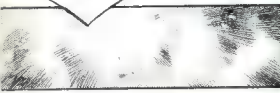
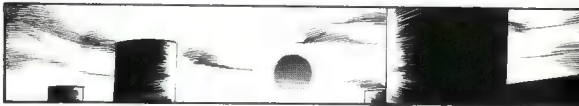
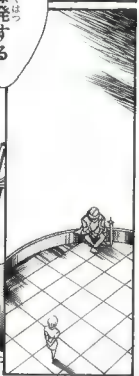
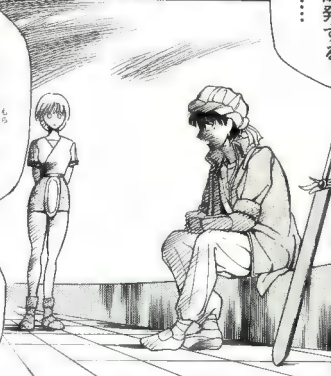
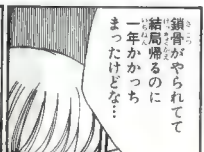
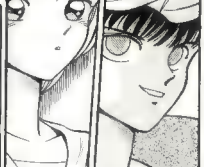
オイあの女の剣を取りあげろ
ギイ

ここまでなの⁉
ゲッ
♪
ガガガ
ドドドオ
!
ドサ

ヒイーー
ヤッホオー
なんでエ
ピンポイントで
射てるじゃ
ねエか！
ギイ
オーーシ
次は
手加減
なしだ！
奴は…
あの時の…!!

オオオオ
ガッ
…………!!
あれは
神の守護獣…
一角龍
ギイイイ!!

ちっ
これを!
いかん!!
その女の剣を早く取りあげろ!
!
ダーッ
!
ザザ
ドズ
ドズ
ズズ

ドドッ
オオオオオ
行くぞォオ
アリシア様に続けぇェ!!
……
みんな!
もらってくぞ!
!
パッ
……

い
いかん
スーッ
野郎ォ！
追え!!
キイ
ゴオオオオ
くそっ
てめェだきゃア
逃がすかよ!!

バッ
道づれにしてくれるわァ
ふざけんな!!

カッ
ゴゴゴゴ
どうなったんだ!?
相撃ちか!?

城が爆発する瞬間……
ジイさんに貰ったクリスタルの玉からドラゴンが飛び出して……
気がついたら右も左もわかんねェ場所でさ
鎖骨がやられてて結局帰るのに一年かかっちまったけどな…
どうどう？
見るべきものはまだねェな
かたいな
グッといけグッと！
……
今日は泣いてねェんだな
ずいぶん心配してくれてたんだろ？

のぼせないで！

あなたみたいに図々しい人首が抜けたって死なないわよ！

あの夜のこと忘れたわけじゃないのよ！

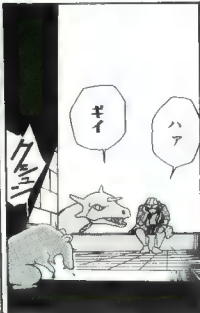
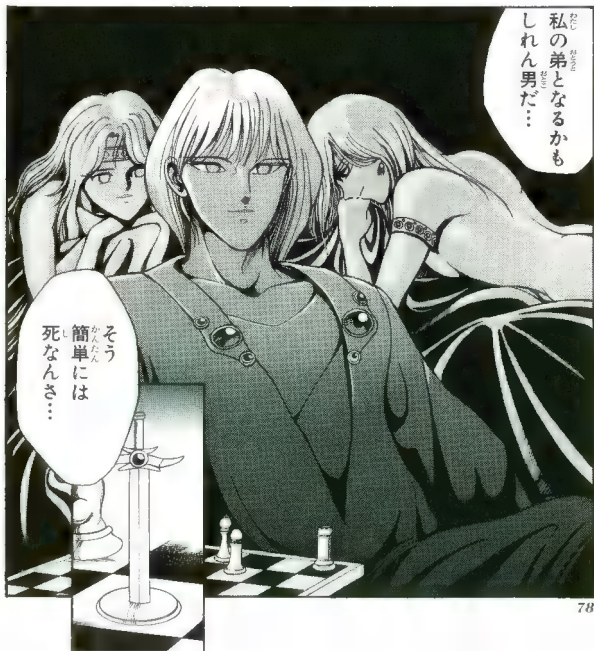
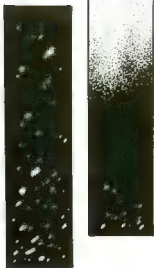
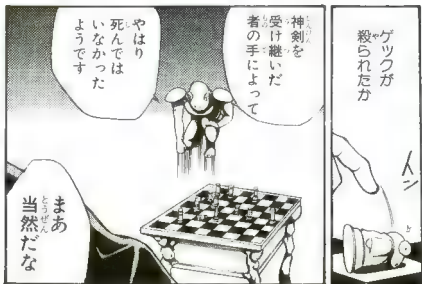
ウソつき！

オーーそーかよ！

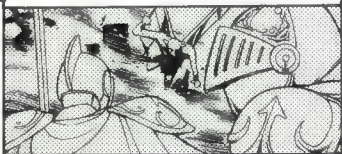
ウソつきで結構でェ！

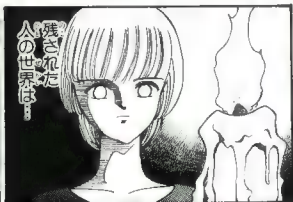
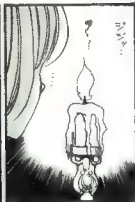
ふん

私の弟となるかもしれん男だ…

そう簡単には死なんさ…

第3話
ダーツとアリシア

吹きつける風の中にも死の臭いがつきない……
今日もまた…セイル河で魔族との戦闘があった
収穫期が近づくにつれ穀倉地帯を頻繁に狙ってくるようだ……

各国でも
魔族への抵抗は
続いているが…

圧倒的な
力の前に
その規模は
小さくなる
一方だという……

ジジッ…

残された
人の世界は…

深い闇の中に
弱々しく光る
ロウソクの
灯のような
ものなのかもしれない

ボオオオッ

ボオオオ

ゴオオオオオ

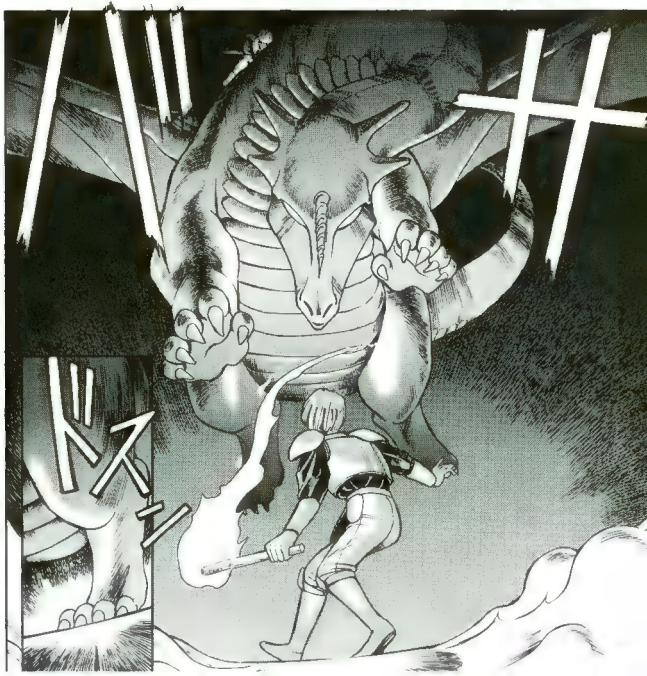
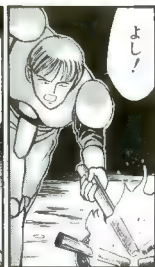
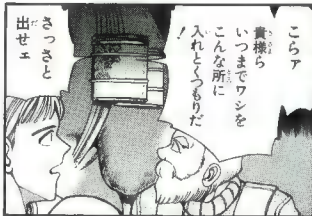
どうだ

……まだ……

来た!

よし!

みんな
場所をあけろ!

ダッ
ご苦労さんダーツ
すぐに食事とベッドを用意させろ
疲れたろォ?
これしきのことでヘタるかよ
ははははは
そうか
ガク

ダーッ!
こらァ
貴様ら
いつまでワシを
こんな所に
入れとくつもりだ!
さっさと
出せェ
あのカゴには
ローディア王国の
大使が入って
おられるんだ
急いで
降ろして
さし上げろ
このォ!
あっ
誰か
医者を!
このガキィ
あ!

何をすんだ！
あんたを運んでくれた人だぞ
だまれ田舎者どもが！

ここに来る途中ワイバーンに会ってなァ
ワシらがおるのにこのお調子者逃げずに戦いだしおったんだ！

こんなバカ者どもと一緒に戦うなど！
先が思いやられるわ！
小国だと思ってバカにしやがって

それにしてもダーツさんなんでそんな無茶を…
何を言っとる
ワイバーンを見逃したらあの大使帰りに狙われるだろ…
まったくたいした子だよ

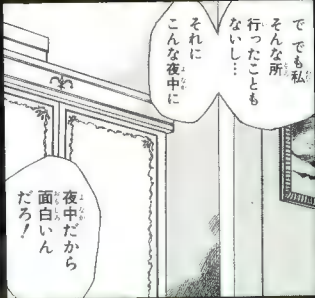
ローディアの大使が来られました
これで全員そろいました
倒れた？
わかりました今行きます
それから……
ダーツが？
医者が言うには疲れが出たんだと…
ここのところ毎日出撃してましたからね
………
我々もダーツさんをアテにしすぎていました…
………そうね

……
大使たちはこちらの部屋においでです…
アリシア様ダーツを見舞うんならこっちですせ
昔ダーツが何をやらかしたか知りませんが
許さないことの方がつらくなることもあるんですよ
……
行きましょう
あ…
ハイ

女の子が
泣いてら……

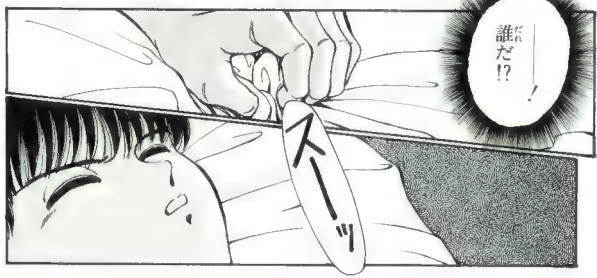
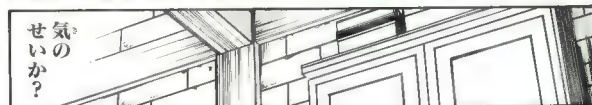
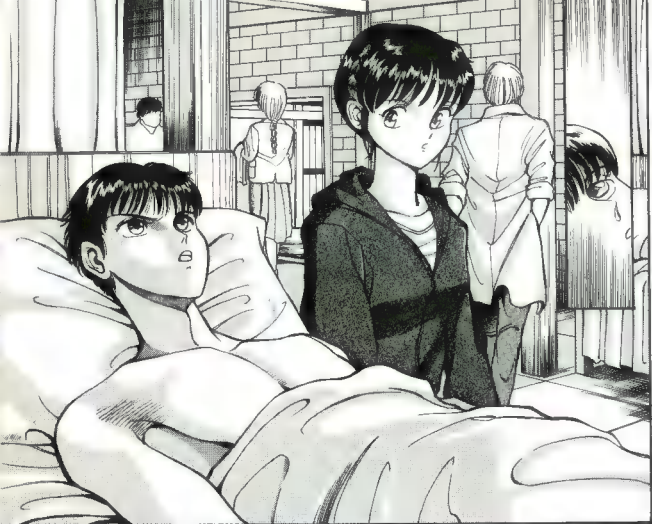
トトン
！
だっ…
シーッ
どあ！
あ
ガタ
なんてね
まあ…
お仕事…
そう
屋根の
修理を…
こんな
夜中に？
え…あ…
昼は日焼け
するんで
それより
さっき
どうして
泣いてたんだ？

ゲッ
あ…
いや…
オレすぐ
余計なこと
言っちまって
悪りィ
………
母さん
体が弱くて…
今日 また
具合が
悪くなったの
………
お医者様に
止められて
会わせても
もらえなくて…
別にこういうの
初めてのことじゃ
なかったんだけど
それで…
部屋で
一人になったら
急に怖くなって…

よし！
行くぞ！
部屋で一人泣いてるなんて不健全きわまりねェ
え？
街で遊ぼうぜ
気晴らししてくれる音楽もワインもあらァ
でも私そんな所行ったこともないし…
それにこんな夜中に
夜中だから面白いんだろ！
警備兵が出してくれません
私
──やっぱり

オレ様には
夜の闇も
警備兵の目も
関係ねェ
どこにだって
行ける……
見せて
やるよ…
ヤバイ！
夢から
醒める！
誰だ!?
──！
スーーッ

――
気付かれたんですか
え……
ああ

誰か今……
夢の中に……

気のせいか？

へえ
それじゃ村に戻らず皆こっちに…
アリシア様の戦いの話が伝わって…
村より城の方が安全だって…
今では魔族から逃げてきた人でここに町ができたって感じ……
人があふれてしまって…
心配ねえよ！
お前たちの村もこの世界も絶対取り返してやらァ

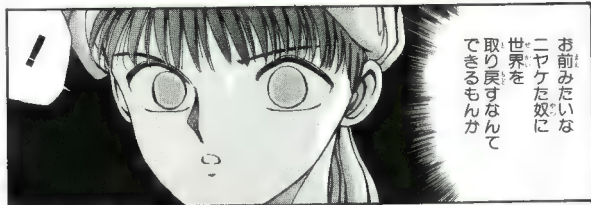
あんまり…
危ないことは
しないで
下さい…
私……
――

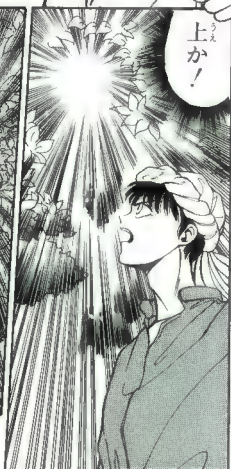
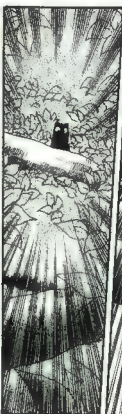
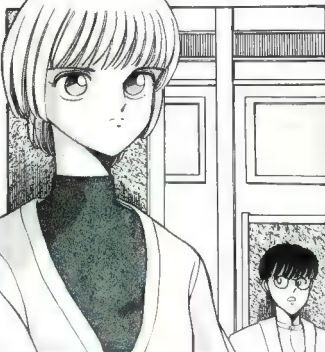
?
?

お前みたいな
ニヤケた奴に
世界を
取り戻すなんて
できるもんか
!

また!

悪りィ
ちょっと離れて
静かにしてて
くれ

どこのどいつか
しらねエが
なめやがって!

暗闇で
気配を
感じるぐらい…
泥棒稼業で
慣れてんだよ
上か！

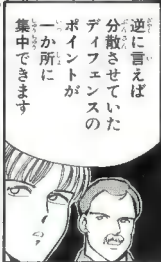
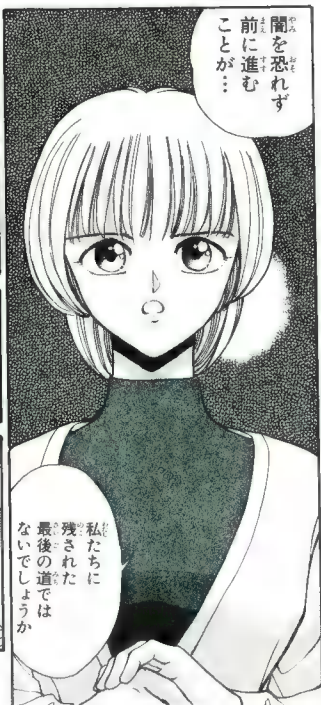
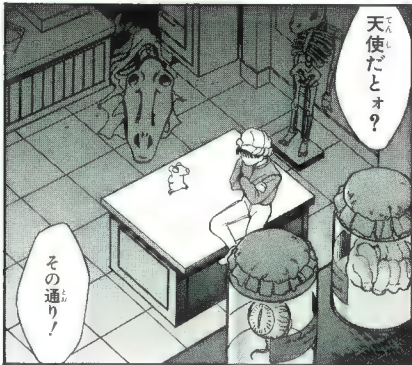
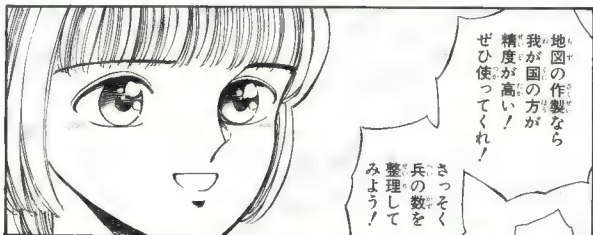
話にならん!!
残された領土を結ぶ回廊を…
魔族の支配地のド真ン中に作るだとォ!笑わせるな!
こんな作戦に我が国が協力できるか
バーン
バカバカしい!
………
こんな小娘に指揮をとらせおって
お前らの国は大丈夫なのかァ
なにィ
待って!

今私たちのすべきことは
今ある地を守ることではなく奪われた地を取り戻すことです…
冬になると魔族の動きが鈍くなるという報告もあり
仕掛けるなら今がその時です
更にもう一つ…
魔族たちはこの回廊に攻撃を集中してくるでしょう
逆に言えば分散させていたディフェンスのポイントが一か所に集中できます
互いの領土に物資・人材の援助ができる
私たちにとって有効な作戦だと思います…

確かに困難な作戦かもしれません
でも皆さん……
闇を恐れず前に進むことが…
私たちに残された最後の道ではないでしょうか
ふん
所詮は女の浅知恵……
いや興味深い意見だ

もう少し具体的な話を聞かせて下さい
回廊を作る優先順位はどうなる？
なっ

地図の作製なら我が国の方が精度が高い！ぜひ使ってくれ！
さっそく兵の数を整理してみよう！

こうしておれん！

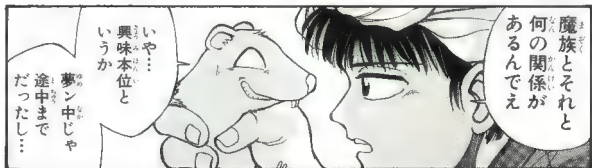
天使だとォ？
その通り！

お前 そのナリで 天の使いを 名のるわけ？

オレだって 自分の姿を 見た時は 信じられ…

いや そんなことは どうだっていい！

神剣を受け継いだ者を導く！

それが オレの 役目なのだ

ふーん

魔族とそれと何の関係があるんでえ
いや…興味本位というか
夢ン中じゃ途中までだったし…

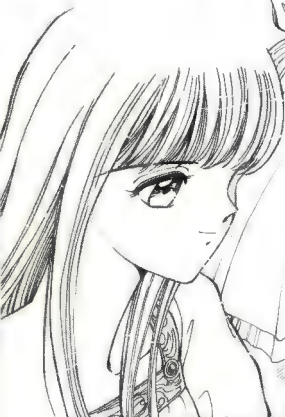
ひょっとして街に出た後いきなり襲ったとか…
バッキャロォ!! そ… そんな外道なマネするか!
ちゃんと城まで送って…
お礼にペンダントをもらったんだよ

ところがその後…
明日も来て下さいますか?
………

ああ
………

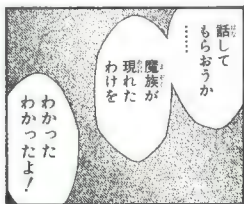
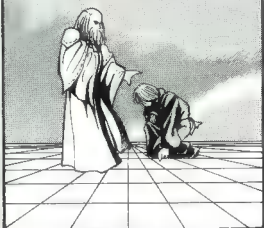
まさか……
その約束破ったとか…

………
お前 人間のクズだな

いや…
行くことは
行ったんだ
そしたら
あいつ……
白いドレス
着て…
すげエ
キレイな格好
してやがってよ…
ゲェエエエ
ギュー！
こっちは
汚ねェナリだし
入るに
入れなかったん
だよ！
ゲホ
ゲホ
なんでそれ
彼女に
言わないんだ
ンな
カッコ悪りィ
マネできっか
いいか
今のこと
誰にも
言うな！
わかったな!!
グッ
フ…
ファかった

ピン
オーーシ 次はお前の番だ
ホゲ
話してもらおうか……
魔族が現れたわけを
わかったわかったよ!

知らねェって…それじゃ話にならねェだろ
うるさいな
最後まで聞けよ!

オホン
そもそもこの連中は伝説にもある通り神様が封印なされたものだ
理由は知らないけど

ある時神様は老いを感じられてな……
自分の力が衰える前に後継者を見つけなければならなくなつた
そして一人の人間を選ばれた…

名前はサタン……
恐ろしく頭のきれる男で霊力も素晴らしかった……
だが奴はそれに見合う野心も持っていやがった…
修業をし…力を得ると奴は神様に反旗をひるがえし…
封印した魔をこの世界にバラまきやがったのさ…
──
だがもう一度だけ………
魔族を封印する力を与えられた人間がいる
ダーッ
お前だよ

お前がその方法を見つけ出せなければ…
この世界に人間の居場所はなくなる

ま 待てよ！
方法なん
つったって
見当も
つかねェ…
オレだって
知らないよォ

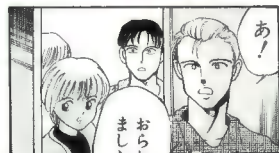
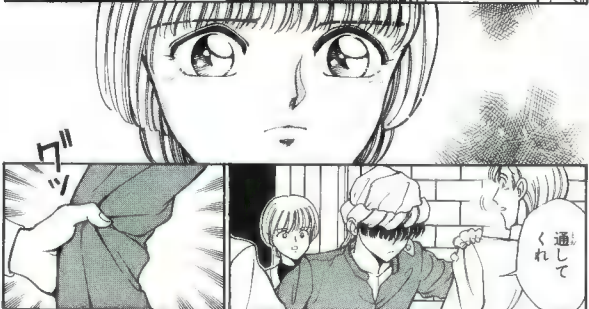
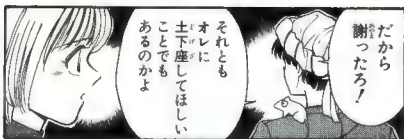
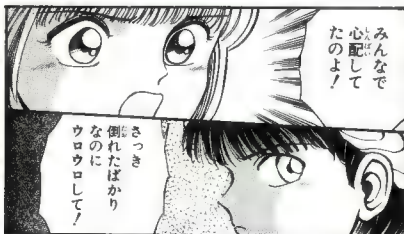
でも
よく考えて
みろよ…
なんで
お前が
選ばれたのか

なんで
オレが……？

あと
探していないのは
この研究室
だけです
カチャ
！

あ！
おられ
ました

ダーツ
こんな所で何を…
さんざん探したんですよ！
ああ……
スマネエ
ピョン
んじゃそーゆーことで
待って！
みんなで心配してたのよ！
さっき倒れたばかりなのにウロウロして！
だから謝ったろ！
それともオレに土下座してほしいことでもあるのかよ
グッ
通してくれ

——……
なんだよ

私のこと嫌っていても…それは仕方ないと思ってる…

だけどこの戦いの中にそのことを持ちこまないでほしいの…
みんなあなたの力が必要なの!

お願い…
……
……
なァダーッ
約束の日に赤と緑の縞のドレスを着るような女の言うことなんか聞く必要ないぜ

何言ってんだ
お前!
あいつが
約束の日に
着てたのは
白のドレス…
ああ!?
ダーツ
なんで…
かーっ
ペタ
………
その子には
何にも
言ってないよ

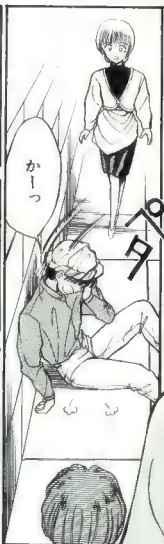
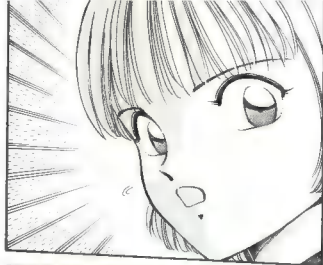
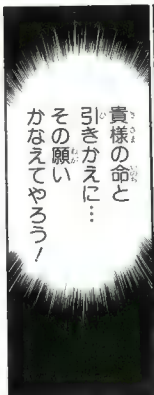
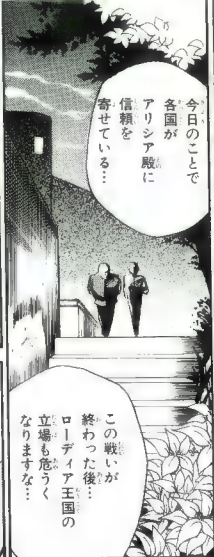
まずいことになりましたな大使…

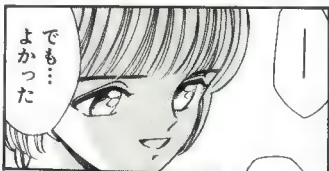
今日のことで各国がアリシア殿に信頼を寄せている…
この戦いが終わった後…ローディア王国の立場も危うくなりますな…

ふん
あんな小娘に振りまわされおって…
悪魔にでも祈りたい気分だ

アリシアなど…
どこかに消えてしまえばいいんだ

願いはとどいた…
!

貴様の命と引きかえに…その願いかなえてやろう!

あははははは!

ははは
ははは
るせェ！
ンな笑うことねェだろ！
だってそんなことで来なかったなんて…
くそ！
だから言うのやだったんだ！
ゴゴメンなさい怒らないで
怒ってねェよ
ー
でも…よかった
私の思いすごしで……
アリシア
今度は約束を破らねェ…

オレの手を握ってるかぎり…
お前も…
お前の世界も全部守ってやる…
ウソじゃねェ
………

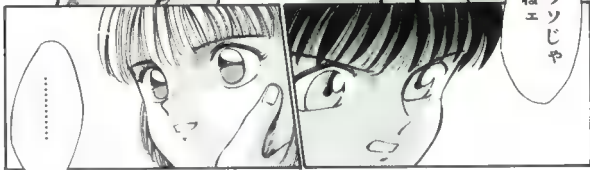
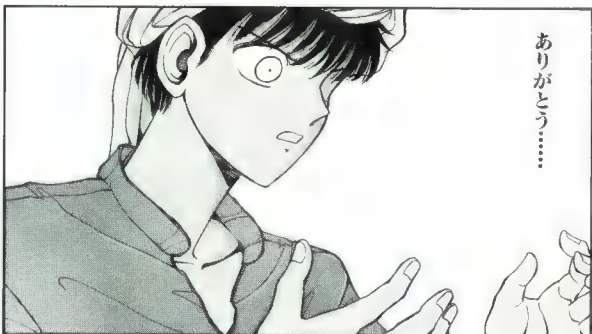
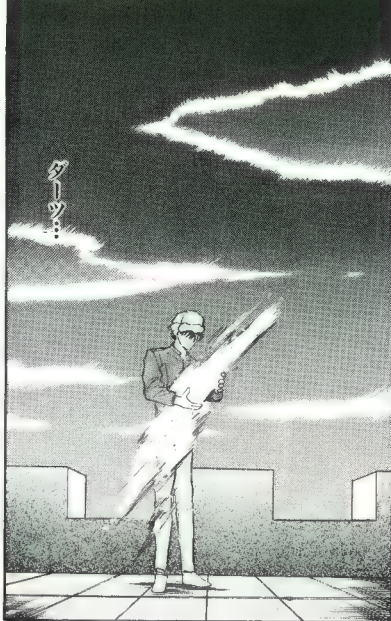
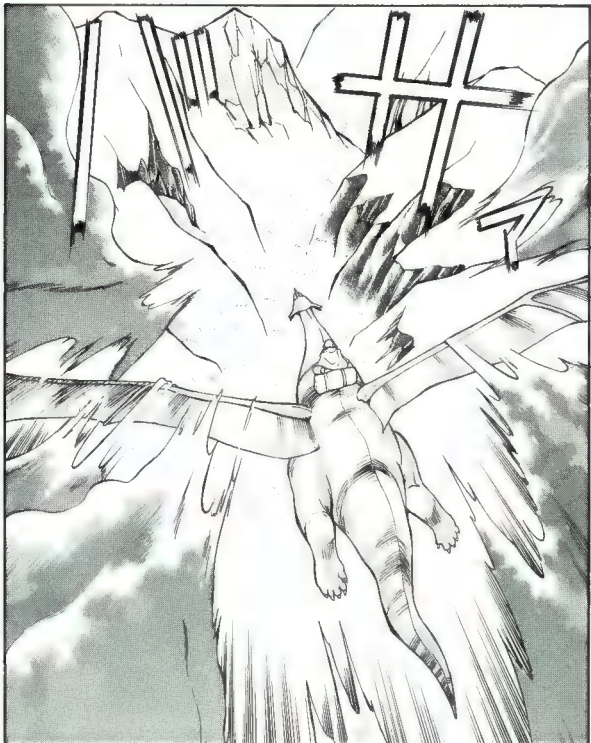
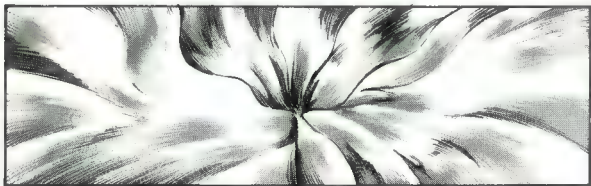
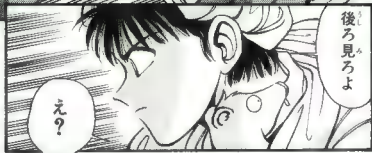
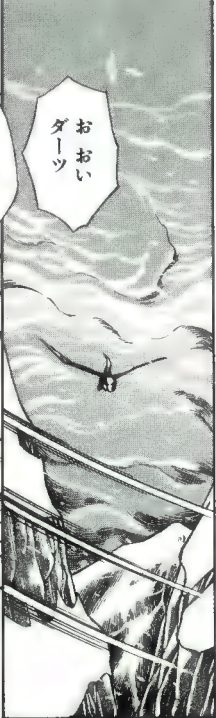
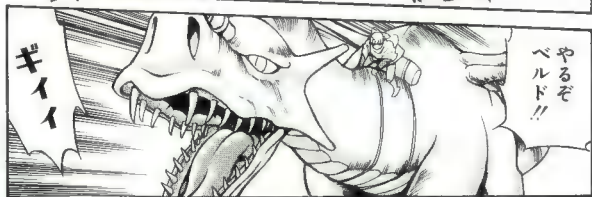
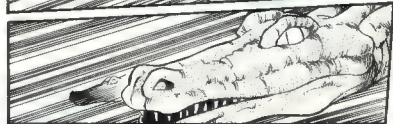
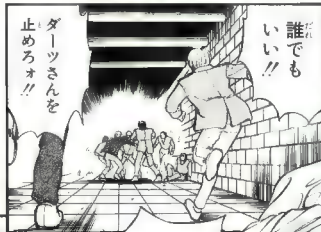
……
ありがとう ダーッ
ダーッ…
ありがとう……

# 第4話　魔王サタン

お おい ダーッ

吹雪いてんのに なんで雲の下に 出るんだよ！

後ろ見ろよ

え？

狙ってるぞ！
わかってる！
やるぞ
ベルド!!
ギイイ
今行くぜ…
アリシア!!

48時間前…
ひっ
ドン
誰でもいい!!
ダーッさんを止めろォ!!
放せてめエら!
オレはアリシアを捜しに行くんだ!!
アテもないのにどこに捜しに行くのです!!
今ダーッさんにいなくなられたら……
るせェ!!!

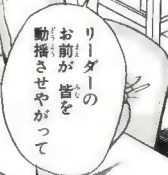
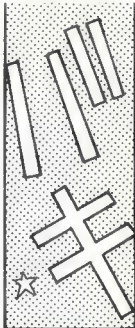
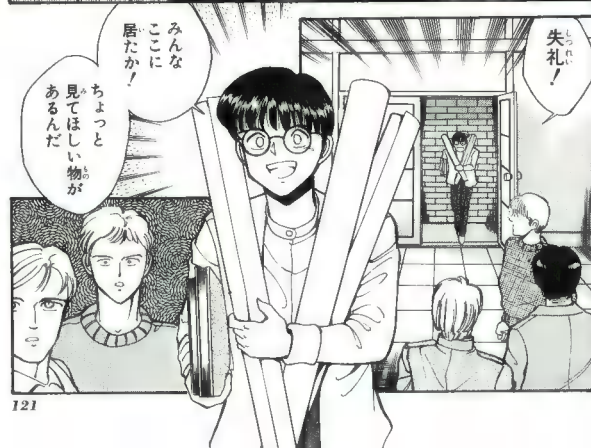
バキ☆
ドンケル？
ポン
お前らしくもねェ……
アリシア様が苦労して起こされた作戦が始まるって時に
国王が亡くなられて混乱の最中皆をまとめるため
あの方がどれだけがんばられたことか……
リーダーのお前が皆を動揺させやがって

失礼!

みんなここに居たか!

ちょっと見てほしい物があるんだ

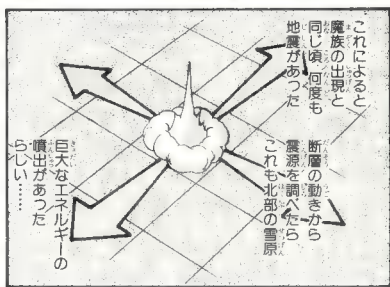
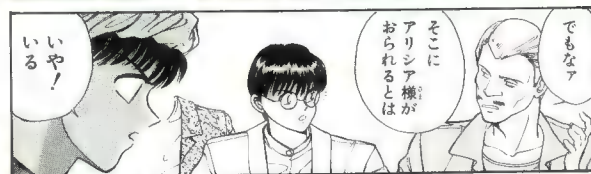
オレは前に言ったよな

魔族に関して根本的なものを見つけるべきだって……

数字だらけ……

見つけたんだ敵の本拠地を

アリシア様もそこにおられるかもしれない

まずこれ！いつ どの方向から魔族が来たかを調べた図だ

ほら北部の雪原から南下して来たのがわかるだろ

しかしなァ…それだけで………
わかってる
でも思い出してくれ…
あのゲックがこの城に来た時最初に言った言葉を…
自分は氷の神殿の使いだって言ったんだ
でもなァ
そこにアリシア様がおられるとは
いや！いる
！
ダーッさんあせる気持ちはわかりますが…
冗談じゃねェ……
オレは落ち着いてらァ

ゲックの奴は確かにそう言ったんだな！
え…ああ…
だったら間違いねえ
？
やっと見えてきたぜ
あちらさんのカードがよ
ダーッ!!
こうしちゃいられねエやオレは行くぜ
え？

どっちかを選べってなら
悪いがオレはアリシアを選ぶぜ！


!!
戦力を再編成するぞ
この作戦からダーツをはずす！
ええっ


こっちはまかせろ
だからアリシア様を必ず……


まかせな
テメェにゃ一発貸しがある

ゴオオオオォ
ヤバイ
仲間呼んだぞ！
ザ
カ
ドオーン
ドオ

身軽な分
スピードは
向こうが
上だぞ！
バババッ
ダーツ
さっさと
神剣を
使えよ
うわっ！
こっちを
狙いはじめ
やがった！
なに
ぐずぐず
してんだ!?
ヒッ
ガッ
！
今だ
ベルド！

ドオオ
ゴオオオオ

ギイイイ
ゴォオオオオ

なに考えてんだよ！

あんな戦い方しなくたって勝てたろ！
寿命が二千年は縮んだぞ!!

なア…

アリシアをさらったのは誰だと思う

そうだな…
あれだけのこと
やれんのは…
やっぱり
サタン…
だろ
じゃあ……
なんで
そんなことを
したと思う？

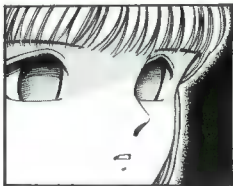
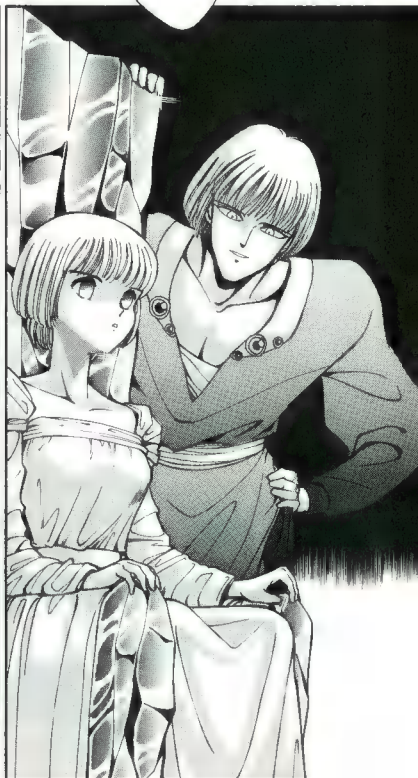
………
えっと
……
………
オレを
誘い出す
ためだよ

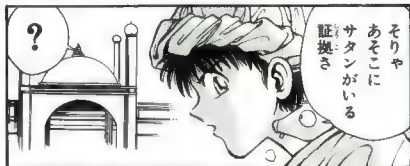
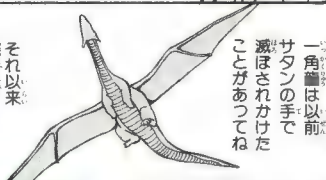
いいかァ…
サタンの奴
最後には
自分の手で
神剣を持つ者を
片づけるつもり
だったのさ
だから神剣を
探しに放った
ゲックたちに
自分の居場所を
わざわざ言わせた…

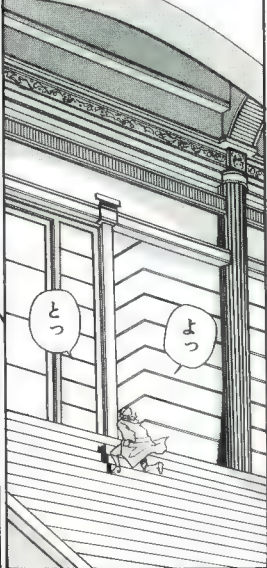
相手の
切り札には
自分の
切り札を
きらなきゃ
ダメってことさ…

他の魔族じゃ
お前には
歯が立たないって
ことか
そんな奴の
テリトリーで
なんで
神剣の力なんか
見せてやる
必要がある！

ま
いずれにしても
オレが
行くまで
アリシアは
無事ってこった

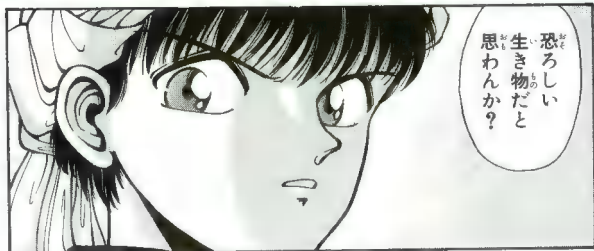
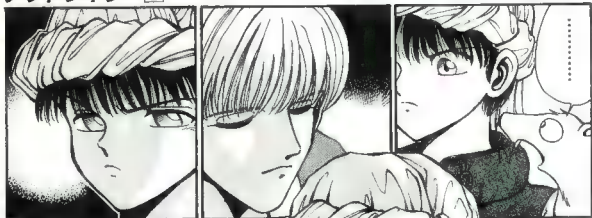
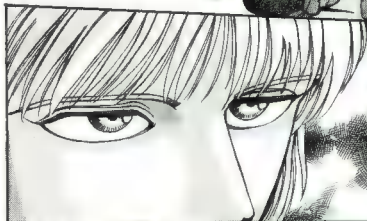
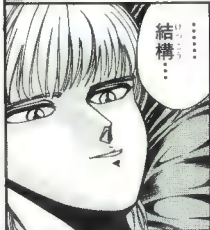
君の王子様はなかなか手強いね
魂を氷づけにされていても声は聞こえているだろう
残念ながら彼は私には勝てない…

さからう
時は…
血の海に
沈めるつもりだ
………

圧倒されんなァ……
昔だったら金庫室を探しまくったろうな…
——にしてもベルドの奴…
そりゃあそこにサタンがいる証拠さ
?
一角竜は以前サタンの手で滅ぼされかけたことがあってね
それ以来恐怖心から近づこうとしないんだ……
なんで降りて来ねェんだ?
ベルドよりお前が空で円描いてりゃよかったのに
どーゆー意味だ?
お前でも飛礫のかわりにゃなるかもな…
ザザッ
オオイ!いきなり突入か!?

よっ
とっ
開いてら…
カチャ
あ…開けるの？
ここからどうやって閉めるんだよ？

ワァアアァァ
!!
さっさと始めろォ!
東方人の言葉だ
……………
幻覚か…?
いけェエ
早く来い!
手間とらせんな

ザッ
早くしろォ
いやァ——
!
よォ
ありゃいったい
あの女子供のためにパンを盗んだのさ
だから罰するんだ
やれェ
罪を裁けェ!!
この国じゃ泥棒は右手を落とされんだ
理由は何であれな

君が今 目を
そむけたように…
人の言う
善悪なんて
実にいかがわしい
ものだ……

だが人間どもは

そんな不完全なものに絶対の基準をもとめる

この世界をどうするか…神の子としての「兄弟」の会談というわけだ
己の答えもなしに私に会うことなど許されん……
我々には世界を変える力が与えられた
では聞こう…その力を与えられた理由を…
君は解いたか？
八つ裂きにされても文句は言えんぞ

……………
オレは泥棒で悪を知っている
善の崇拝者ではなくだが善を知っている
闇を知り光を知る者…それが裁定者としての資格だ……！
……結構…
パタ
……………

私には見えるのだ……
人間は身勝手な善悪の基準をふりまわし…
やがてはこの世界の破壊者となるだろう
私を悪と呼ぶならそれもかまわん
裁定者としての自分に誇りを感じるよ
だから私は滅ぶべき種として人間を選び…
魔を解き放って世界を混沌に戻すことにしたのだ…
そんな勝手なことを…!
昔親父がよく言ってたぜ
自分の行動を正当化する理屈なんざ星の数ほどある…
その理屈がだんだん増えてきて……
しまいにゃ自分が利口でしかたねェって思えてくる…

そういうのをな…
子供ってんだ
……
随分辛辣だね
カチン
アリシアはどこだ？
会わせよう——

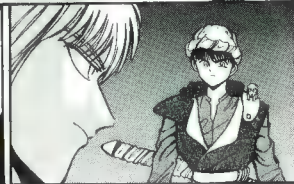
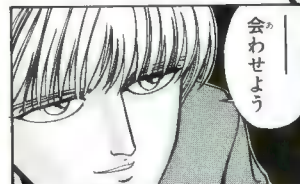
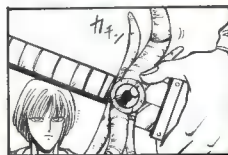
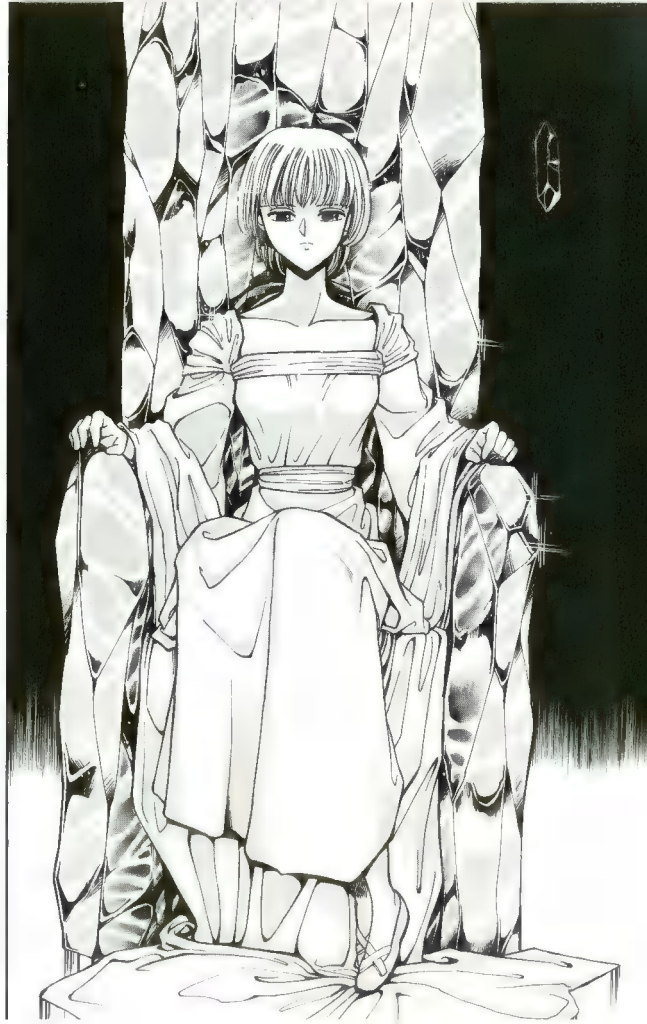
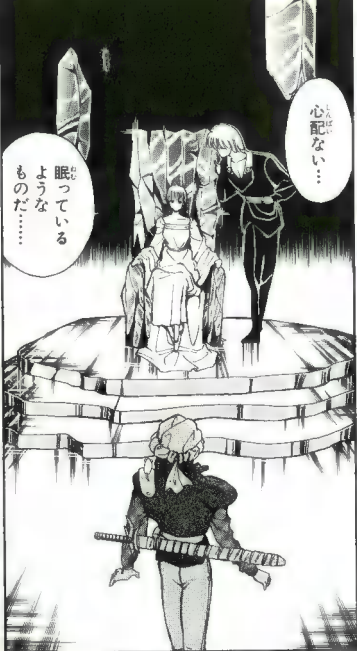
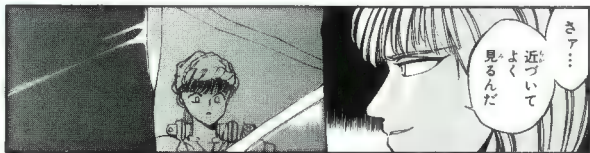
心配ない…
眠っているようなものだ……

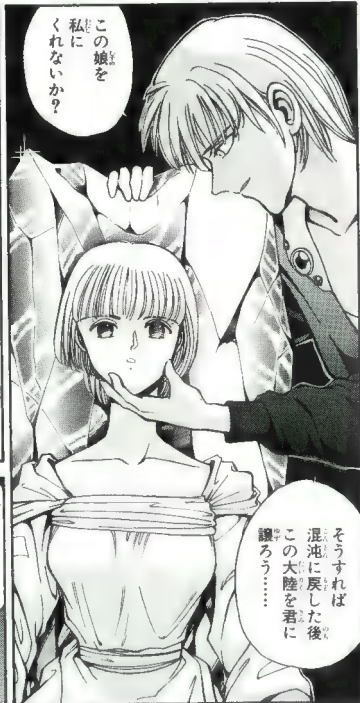
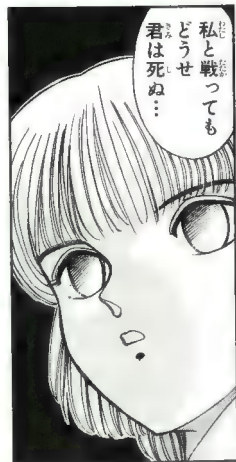
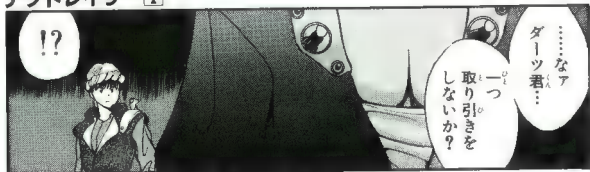
なかなか美しい寝顔だ…

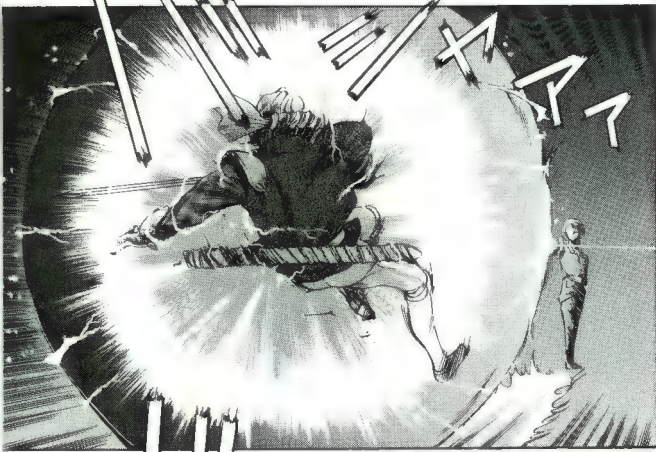
汚ねェ手で触るな

ハハハ…すまない
許してくれ…

ダーツ君これを見てみたまえ

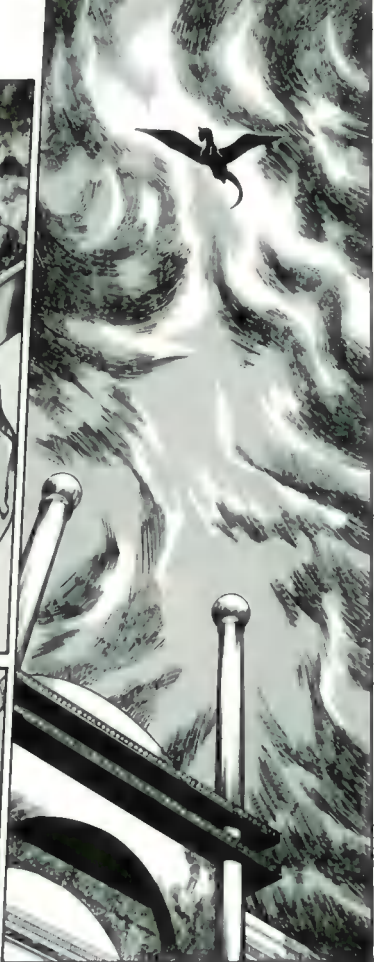
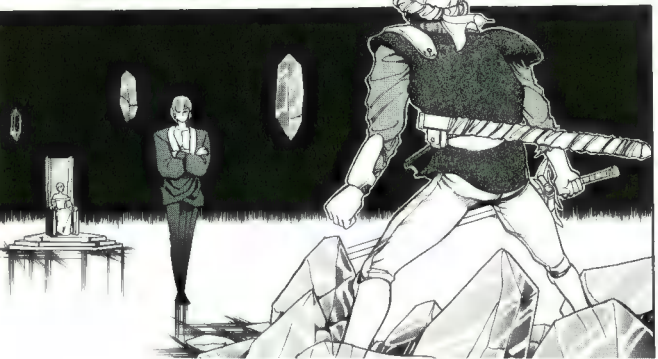
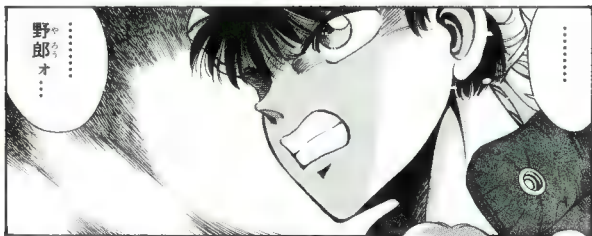
何もしないよ
さア…

さァ…
近づいてよく見るんだ
!
どうだ…見えてきたか…
君の友人たちだ
君が抜けたおかげで戦力がかなり落ちてるね
ははは…また一人死んだよ
人間など所詮この程度の生き物さ…
守ってやる価値などない…

……なァ
ダーツ君…
一つ取り引きをしないか?
!?
この娘を私にくれないか?
私と戦ってもどうせ君は死ぬ…
そうすれば混沌に戻した後この大陸を君に譲ろう……
生きて神となる方がいいだろう?

シュッ
生まれてこのかた
……
こんなに腹の立ったことはねェぜ
…………
少し買いかぶりすぎていたようだな
君はもう少し利口な男かと思ってたよ
悪りィな期待にそえなくて…

ガッ
!!
バシャアァ
ドシャ

神剣が……
魔法を
はね返さない！

立ち
たまえ…
幕はまだ
上がった
ばかりだ…

# 第5話 最終決戦（ファイナルバトル）

ガリッ
ガラ

………
………野郎ォ…
ダーツ君
折れたか……
ゲックにやられた跡が回復してなかったな…
それでは満足に戦えまい…
古傷があるようだね
大丈夫……あなたならやれるわ……
!?
なんだ!?

ちっ
ドオオン

ゴゴゴ
スッ
ザッ
おおりャアア

ドオオン
おおおおお

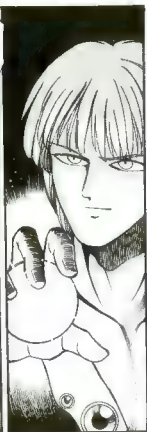
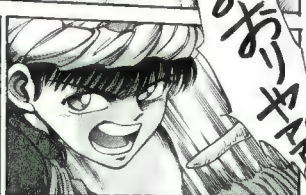
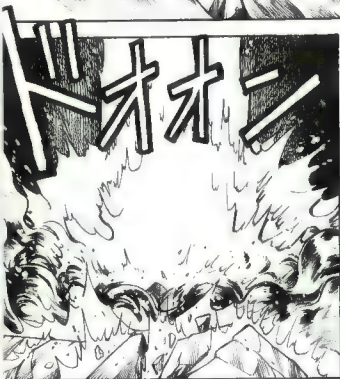
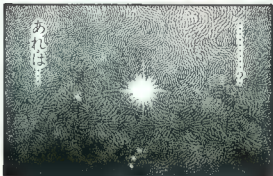
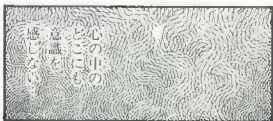
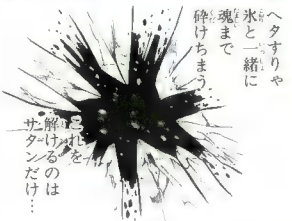
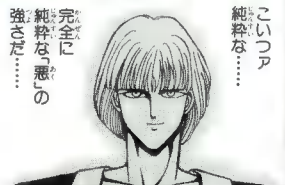
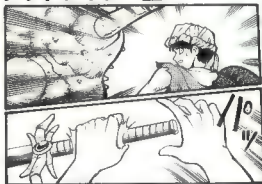
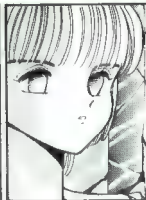
とっ
ほっ
ゴゴ
よっ
タッ
オイ！オレの声が聞こえるか!?
返事できるか!?
？
ただ眠らされてるだけじゃないのか？
心の中のどこにも意識を感じない……
……？
あれは……

そうか……
意識を凍結されて無意識の奥底に沈められてるんだ!!
こりゃひでぇ…
だけどオレじゃ引き上げられないや…
ヘタすりゃ氷と一緒に魂まで砕けちまう
これを解けるのはサターンだけ…
!
待てよてことは…
ダーツの奴を止めないと!

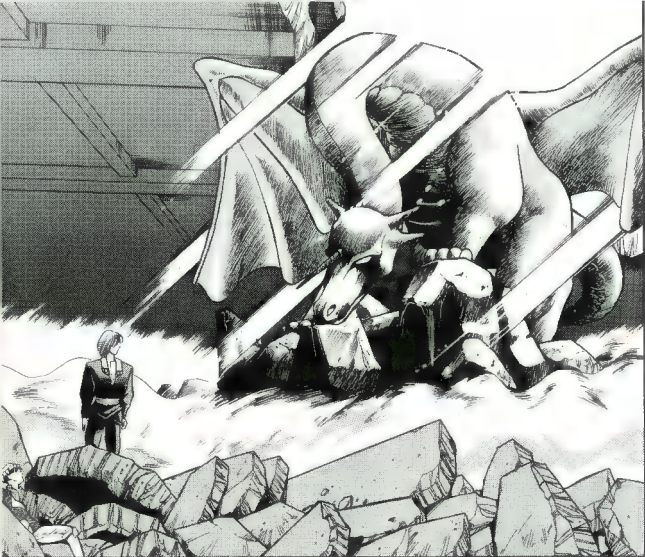
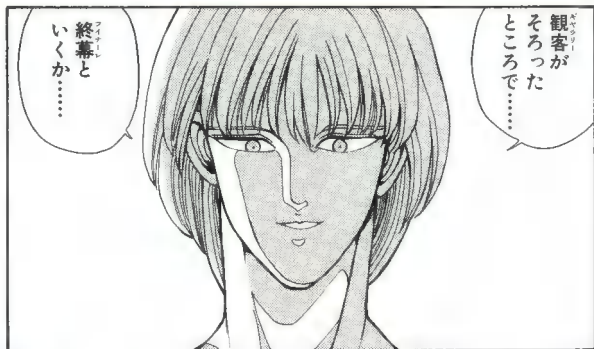
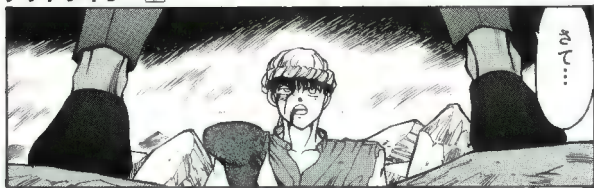
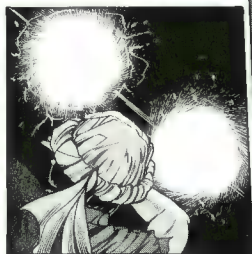
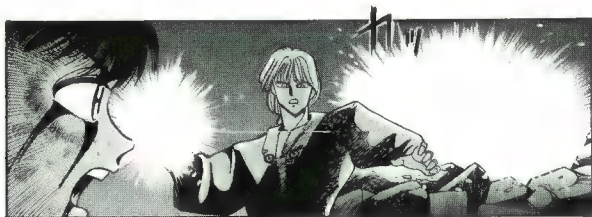
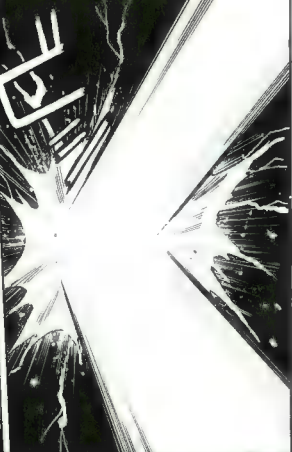
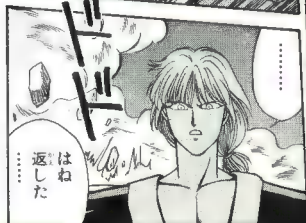
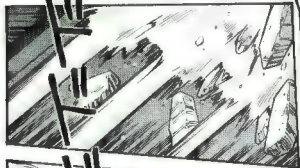
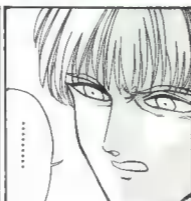
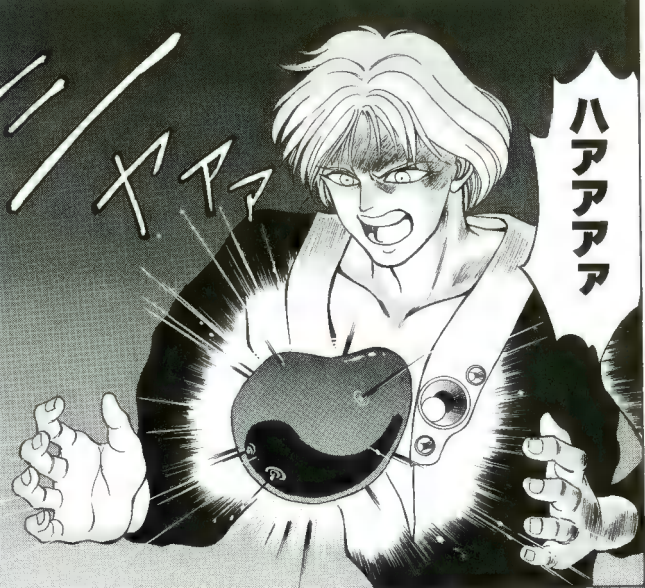
はっ
はっ
強え…
この野郎
ネズ公の言ってた
野心家なんて
ヤワなもんじゃねェ
こいつァ
純粋な……
完全に
純粋な「悪」の
強さだ……
今のままでは
彼を倒すことは
できません…
!?
ですが…
あなたの手札は
まだ残っています
また!
誰だ!?
はアアア
!!
ドドドドド

ドミャァ
パッ
くそっ
くっ
ダーッ
やめろ!
ストップ!
ドドォ
!?
ドドァ
わっ
とっ

わ――――っ
どうしたァ!?
ギャン
ゴン
!
冗談きついぜ

ゴオオオオ
ドドオオ
ドオーン
ゴオオオ
タッ

ほう…
剣の力で死は免れたか…
しかしどこまでもつかな…

いい加減な
正義や悪の基準で
世界を振りまわす
人間たちを
このままに
しておけるか？
近い将来…
恐ろしい結末を
むかえるとは
思わないか？
さあ…
我がもとに
来い……
不完全な世界に
終止符を打ち
至高の理想世界を
造るのだ
それを
見過ごすことが
神の子として
選ばれた者の
することなのか？
…………
確かに
お前の言う通り
かもしれねぇ…
でもオレは
そんな人間が
好きなんだぜ
だからオレは
死んだって
人間の味方
するね

ならば死ね！
大丈夫！来るわ！
え!?
ゴォォォ
!?
ドドド
ゴト
これはこれは…
君の友人は■の開け方も知らないようだね

パーティーに参加したいのかい？
お前も殺された仲間の所に送ってほしいのか？
己の役目も果たせずクリスタルに逃げ込んだ負け犬が……
よくもオレの前に現れたものだな…
ベルド!!

来い！ベルド

オレに力を貸せ！

さて…

観客がそろったところで……
終幕といくか……

死ねェ!!
!
ベルドオオオ!!

カッ

!!

なに!?

ビ
ドドドド
…………
はね返した……
……ベルド

一角龍……
神を守護する者
………か!!
……くっ…
どうした
サタン…
責任もって
カーテンコール
まで
仕上げようぜ
お互いこれで
手札が全部
開いたってわけだ
………
調子に
のるな
グッ

シャアァ

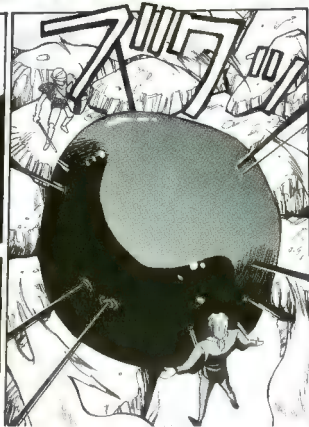
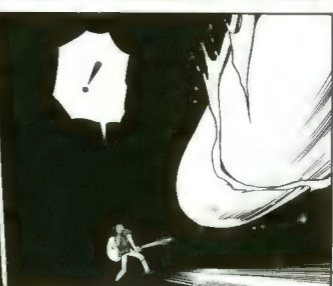
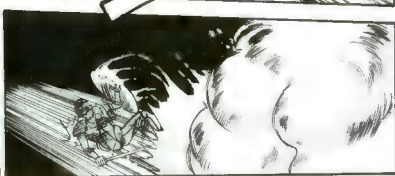
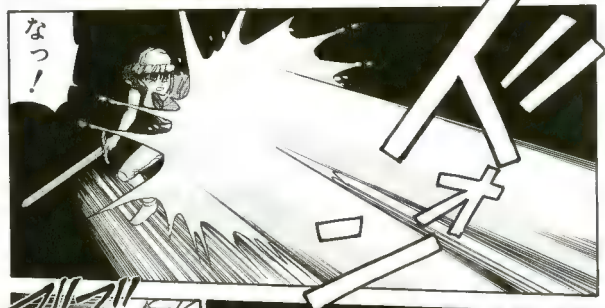
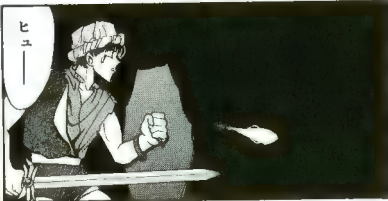
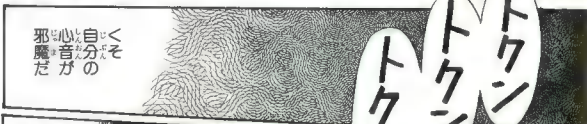
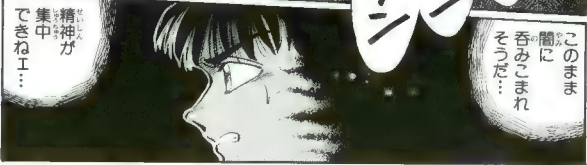
ハアアアア

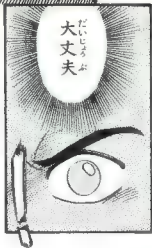
……？
黒い霧……

奴はどこに…
ククク……

！

!!

なっ!

くっ……
喰えねえ野郎だ
盾を封じるためのかく乱かよ…
どこだ!?
トクン
トクン
トクン
くそ自分の心音が邪魔だ
このまま闇に呑みこまれそうだ…
精神が集中できねエ…

いやな闇だ…
そうなんだ…
知らず知らずオレ自身が認めているのかもしれない…
今のオレじゃ奴の純粋さに歯が立たねえって…
どこまでも深く何をもよせつけない…
完全で純粋な奴自身の闇…
盾や剣がそろったところで…
オレには倒せねえのかもしれねえ…
大丈夫
ギュッ

ダーツさん
あなたにならできる
サタンの闇が
完全に見えるのは
見せかけに
過ぎません
怒りと憎しみから
出口のない
凍れる世界に
閉じこもっている
だけなのです
剣を
とって!

彼の暗闇を切り離すのです！
自分を…自分の選んだ道を信じて！
今…全てを終わらせて…そして――
あの子を私の手に

なっ……

……!!
貴様…どうして……

ドッ

バタ.

そうか……そうだったのか…

スッ
!
母さん……!!
あの女は
確か……
幻覚の中で
腕を切られてた
……

僕ね！母さんをひどいめにあわせた人間たちをやっつけようと……

いっぱい戦ったんだよ！

ねえ見ててくれた？

一生懸命やったんだ

ありがとう……やさしい子……

さ……一緒に行こ……

………

行くってどこに？

――

怖い？

………

ううん！

聞こえていた声の主だ……

スッ

なんだとォ!!

もとに戻らねぇってのは どういう意味だよ!?
く…苦しい

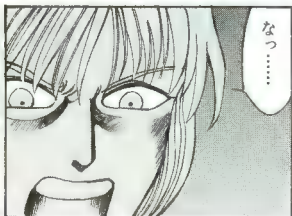
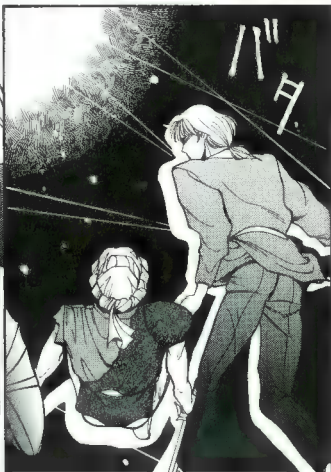
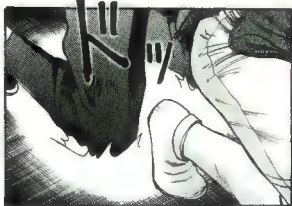
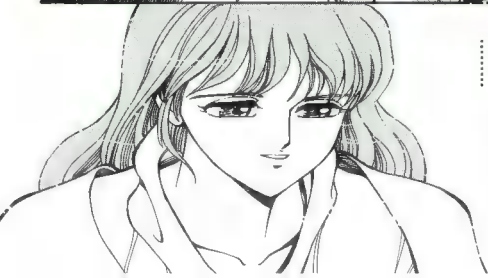
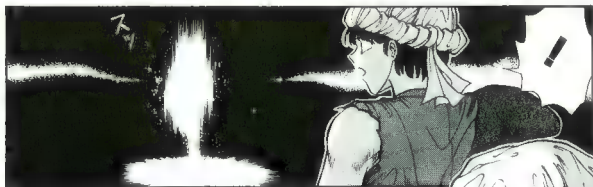
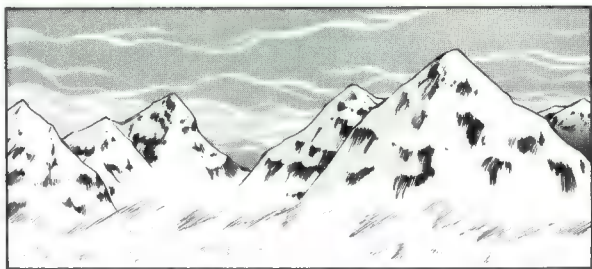
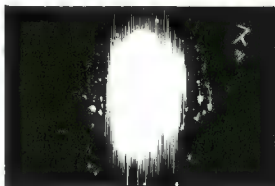
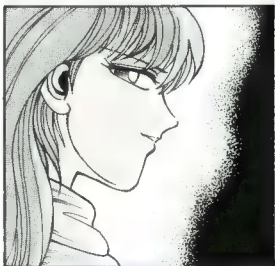
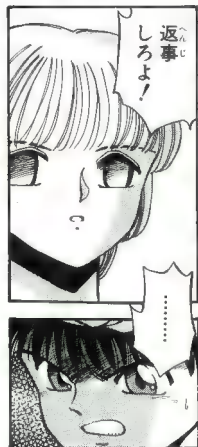
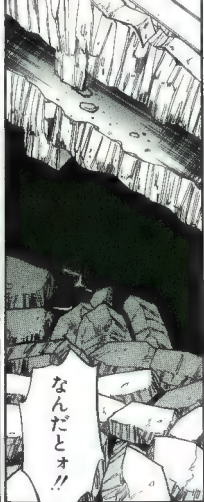
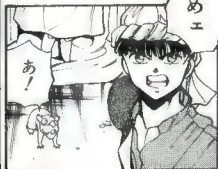
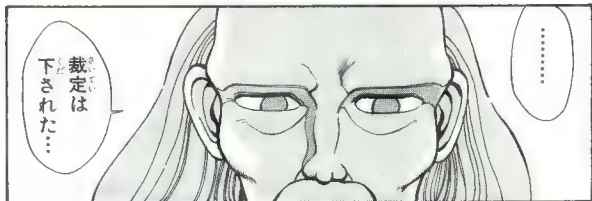
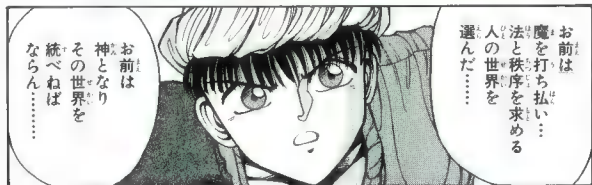
そんなこと言ったって
気を失ってて……

ダッ
わっ
くそっ!

アリシア!
オレだ! わかるか!?

返事しろよ!
?
………

神様！

サッ
！
てめェ
あ！

………
裁定は下された…

お前は魔を打ち払い…法と秩序を求める人の世界を選んだ……
お前は神となりその世界を統べねばならん………

へっ!
オレはどこにも行く気はねェ

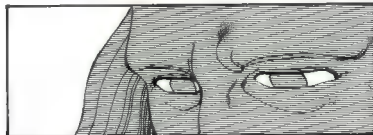
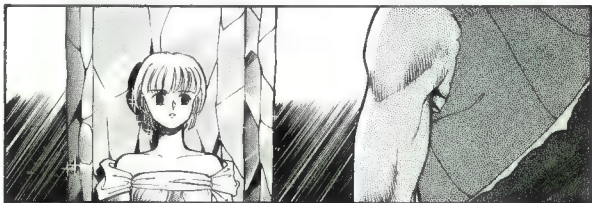
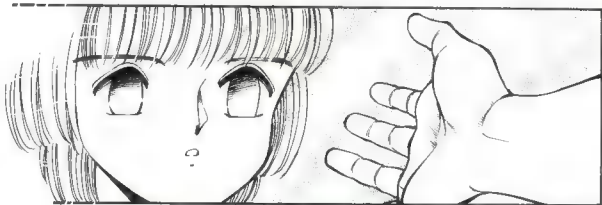
それよりアリシアをもとに戻してくれ
神様だったらできんだろ

ワシにはもうそんな力はない……
しかしお前ならできるかもしれん……

……
オレが…神になれば……

守ってやるって
約束しち
まったもんな
ついて
ねェや
もとに
戻ったら
城の連中に
ヨロシク
言っといて
くれよ

気が付くと
私は……

城の近くの
川岸で
倒れているのを
助けられていた…

魔族の残党も
人々の勇敢な
戦いにより
一掃され……

歴史へとつながる
勝利を
手に入れた……

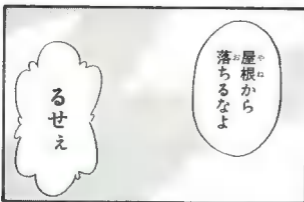
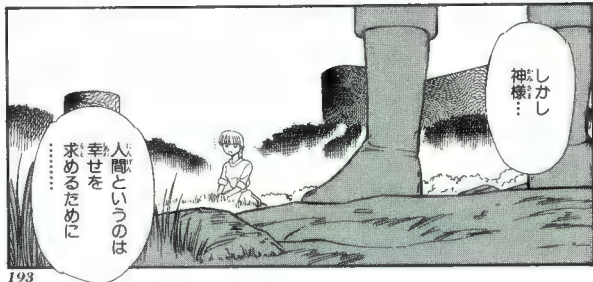
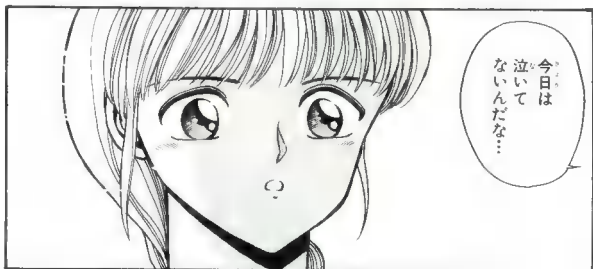
人の世界は
再び……
この地上に在ることを
許されることと
なった……

そして
二年の歳月が
流れた……
ほらそこ！
腰が入って
ねェぞ
カーン
カーン
釘が足らねェぞ
早くもって
来い！
おーーい
ドンケル！

お前
隊長になっても
屋根の修理かよ

るせェ
人手が
足らねェんだよ
参謀様!

アリシア様
見なかったか?
復興計画で
相談が
あるんだ

おお

確か
花壇の方に
行かれたぞ

わかった
行ってみる

そうだ
ドンケル!

ん?

屋根から
落ちるなよ

るせぇ

まァ
そう怒るな
天使よ…
体の方も
少し
落ち着いて
きたしな……
あの者が
地上を懐しむ
姿を見ておると
こっちまで
つらいわい……
ワシが
がんばれる間
今しばらく
時間をやろう……
あちらで
学ぶことも
あるだろう
ザザッ
………
しかし
神様…
人間というのは
幸せを
求めるために
………

諦めるということを知らない者たちですね……

掲載・月刊ガンガンファンタジー平成5年11月号～平成6年3月号

アクトレイザー[I]　おわり

GFC

1994年6月27日　初版発行

著者
加藤元浩


編集人
保坂嘉弘

発行人
千田幸信

発行所
株式会社エニックス

〒160 東京都新宿区西新宿7-5-25木村屋ビル
〈編集〉ＴＥＬ03（3369）1957〈販売・営業〉ＴＥＬ03（3369）8982ＦＡＸ03（5330）3120

印刷所
凸版印刷株式会社

装幀
P. H. 2

---



ISBN4-87025-514-6 C9979
Printed in Japan

ISBN4-87025-514-6

C9979 P780E

雑誌 48070-15

定価780円(本体757円)

エニックス